射水市教育委員会１０月定例会次第

日　時　令和５年１０月２３日（月）
　　午後１時から
場　所　庁舎会議室３０１

１　会議録の承認

２　各課等の連絡事項及び報告事項
（１）「令和５年度全国学力・学習状況調査における射水市の結果について」
（教育センター）資料１
（２）教育委員会行事予定　資料２

３　その他

※　次回教育委員会の開催日時について
１１月２１日（火）　午後３時から　市庁舎４０１会議室

資料１

「令和５年度全国学力・学習状況調査」

における射水市の結果について

令和５年 10 月 23 日（月）

射水市教育委員会

令和５年度　全国学力・学習状況調査について

Ⅰ　調査の目的

○　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
○　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
○　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅱ　実施概況（射水市小中学校）

○　実施期日　　令和５年４月１８日（火）
○　調査内容　　・学力調査（教科に関する調査）
　　（小学校）国語、算数
　　（中学校）国語、数学、英語
　　・学習調査（質問紙調査）
　　児童生徒、学校

○　実施学校数、実施児童生徒数

射水市小中学校	小学校６年		中学校３年	
	実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
	１５校	７１１名	６校	７４６名

※　用語説明

平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○　国語、算数、数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数） ○　学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率

Ⅲ　令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果について

射水市教育委員会では「射水市学力向上委員会」を設置し、学力調査及び質問紙調査の結果を分析・考察して、学力向上対策に反映させている。

特に、日々の授業で児童生徒が「分かる・できる」を実感できるよう、射水トライアル３点セット（射水スタンダード～授業のＡＢＣ～、授業研究協議ステージアップ、授業力向上のちょいテク）を活用した教員の授業力向上に努めている。学力調査から、小・中学校ともに無回答率が全国・県平均に比べて低い。質問紙調査からは、「自分にはよいところがあると思う」（自尊感情）と回答した割合が小・中学校ともに、全国・県平均に比べて高く、昨年度よりも高くなっている。

確かな学力の定着に向け、射水トライアル３点セットを活用した継続的な授業改善を図るとともに、補充学習の充実や学び高め合う集団づくりの推進、ICT機器を活用する研修を一層支援していきたい。

１　学力調査の結果（教科区分別平均正答率）

○小学校　国語では、全国平均、県平均を共に上回った。
　　算数では、全国平均を上回り、県平均と同等だった。

○中学校　国語では、全国平均、県平均を共に上回った。
　　数学では、全国平均を上回り、県平均を下回った。
　　英語では、全国平均、県平均を共に上回った。

（単位：%）

区　分	小学校 6年		中学校 3年		
	国　語	算　数	国　語	数　学	英　語
射水市	７１%	６５%	７２%	５３%	４７%
県との差	２	０	１	－１	１
国との差	４	２	２	２	１
富山県	６９%	６５%	７１%	５４%	４６%
全　国	６７%	６３%	７０%	５１%	４６%

※　文部科学省は平成２８年度より、小数点以下第１位を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられることから、平均正答率を整数値で公表している。

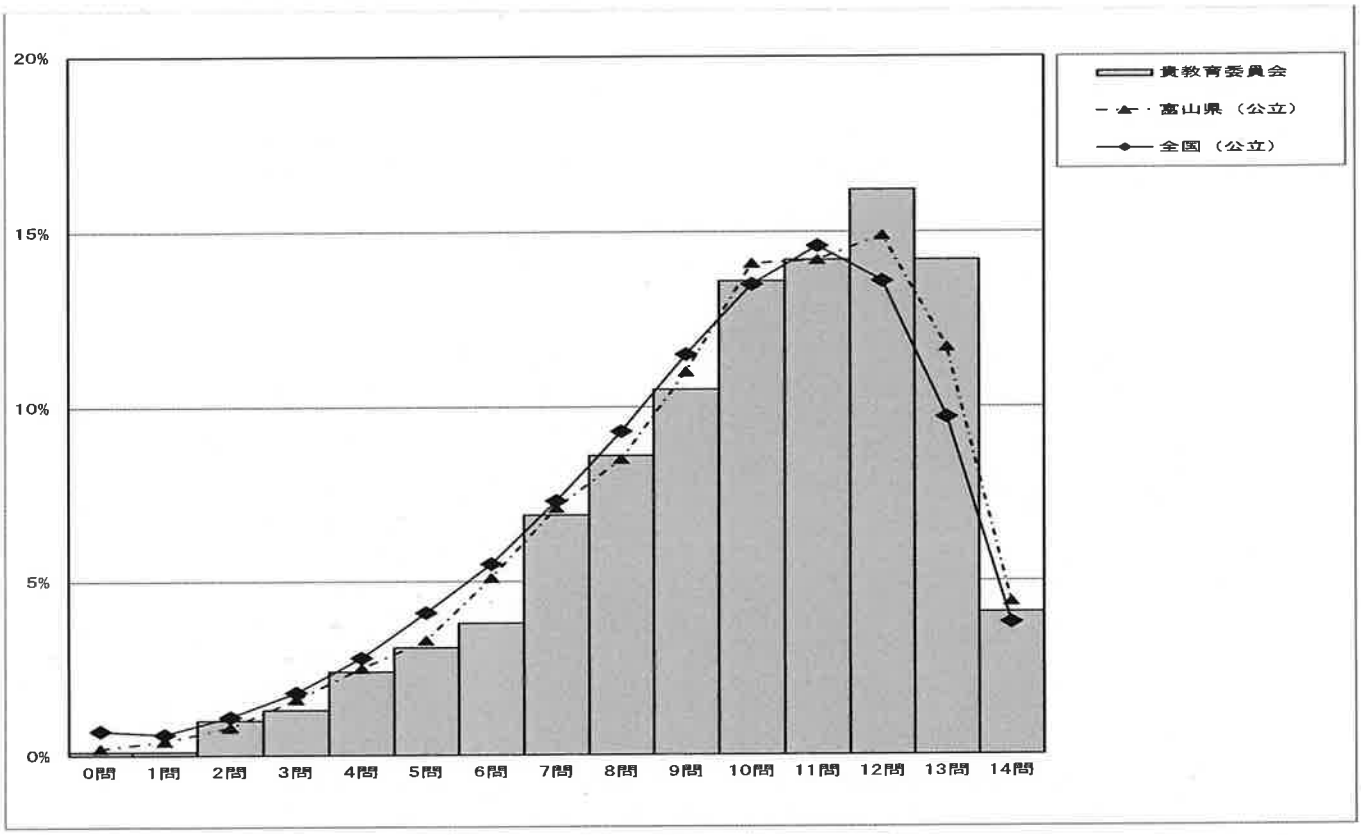
【参考】（令和４年度学力調査）　（単位：%）

区　分	小学校 6年			中学校 3年		
	国　語	算　数	理　科	国　語	数　学	理　科
射水市	６９%	６７%	６８%	７１%	５５%	５１%
県との差	２	１	０	１	０	－１
国との差	３	４	５	２	４	２
富山県	６７%	６６%	６８%	７０%	５５%	５２%
全　国	６６%	６３%	６３%	６９%	５１%	４９%

小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	712	9.9 / 14	71	10.0	2.7
富山県（公立）	7,534	9.7 / 14	69	10.0	2.8
全国（公立）	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

正答数分布　グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果　表【平均正答率：◎県以上】

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体			14	◎71	69	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	◎77.0	74.8	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	◎65.4	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	◎74.6	72.3	72.6
		B　書くこと	1	27.7	31.0	26.7
		C　読むこと	3	◎75.1	74.2	71.2
評価の観点		知識・技能	7	◎73.7	71.6	68.9
		思考・判断・表現	7	◎68.1	67.2	65.5
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	◎75.9	74.9	73.6
		短答式	2	◎73.9	69.5	62.7
		記述式	3	◎54.0	53.0	51.1

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

小学校国語

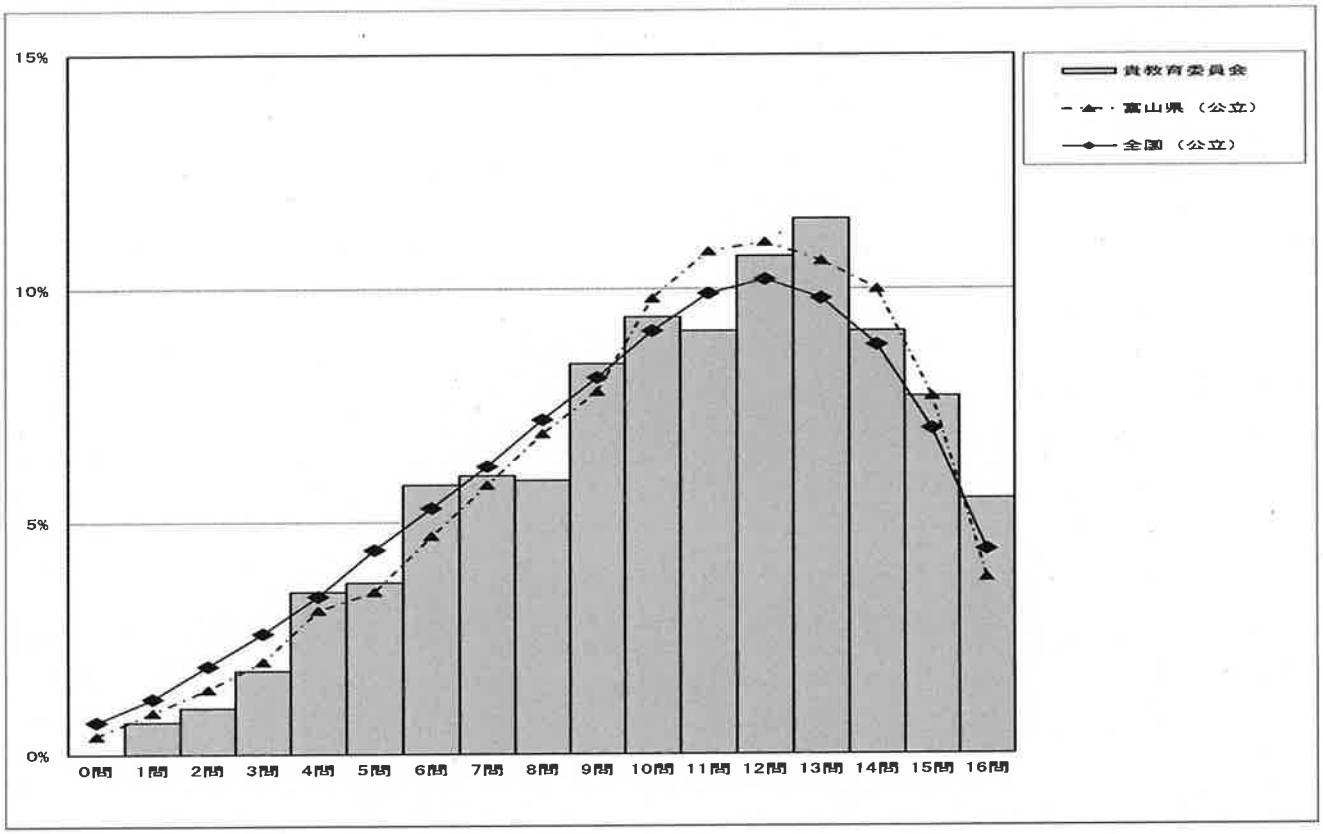
結果の概要	○全体の平均正答率は、全国平均を3.8ポイント上回っており、県平均も２ポイント上回っている。「学習指導要領の内容」「評価の観点」「問題形式」の分類において、全国平均を上回っている。 ○無解答率が全国平均に対しては全ての問題において、県平均に対してはほとんどの問題において低い。 ●「書くこと」を柱とする領域では、県平均を3.3ポイント下回っている。
各領域・評価の観点の分析	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域の「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」問題（設問１四）の正答率が県平均よりも2.1ポイント高かった。漢字の書き取り（設問１三(１)ア、ウ）の正答率も、県平均よりも3.6ポイントと5.3ポイント高かった。令和３、４、５年度全てにおいて、県・全国と比較したときに一番ポイント差が大きいのが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」である。また、問題形式においては、短答式が３年間とも県・全国に比べてポイント差が大きいことから、反復練習を行う家庭学習の取組やタブレット端末の活用を推進してきたことが成果として現れたと考えられる。今後も従来のノートを用いた学習に加え、タブレット端末を活用したドリル学習等を行っていくことで、基礎基本の定着を図っていくことが大切である。 ○「話すこと・聞くこと」領域の「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題（設問３二）においては、県平均を４ポイント上回った。児童質問紙36の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」、40「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の話合いに関する項目で「当てはまる」と回答した児童が全国平均を上回っていることからも、日常生活で児童が話し合う活動を通して考えを深めたり広げたりしていたことが伺える。今後も、日常的に話合いを大事にしていくことが重要である。児童質問紙13の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答は、全国平均をわずかだが上回っている。今後も、授業中に、自分の考えを述べるだけでなく、違う考えの友達と話し合って分かったことを代弁したり、自分以外の考えからよさを見付けたりする活動を重視していくことが効果的であると考える。 ●「書くこと」領域の「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題（設問１二）の正答率は低く、全国平均を１ポイント上回っているものの、県平均を3.3ポイント下回った。中でも、解答類型が５（一文に二つの条件が記載されているもののうち、一方は満たしているが、もう一方を満たしていない解答）だった児童が22.2ポイントで、全国平均より3.1ポイント、県平均より3.2ポイント多くなっている。また、児童質問紙32「５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発

	表していましたか」で「発表していた」とする児童が全国平均を下回っている。つまり、グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。普段の作文を、自由に書くだけでなく、条件を付け加え、条件内で書く練習を積み重ねる必要がある。また、情報と情報との関係を捉えて整理する力が必要であることから、国語科の学習に限らず、総合的な学習の時間や社会科等において、自分の考えを伝えるために図表やグラフを用いて説明する活動を計画的に行うことが効果的であると考えられる。 ・また、必要に応じて、教師が、図表やグラフを用いたモデルとなる文章を提示し、児童の書いた文章にもよさを取り入れられるよう指導することによって、よく理解できる文章になることを実感できるようになると考える。 ○「読むこと」領域はどの設問でも県平均を上回っていた。その中でも「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題（設問２四）の正答率は、県平均を 2.1 ポイント上回っている。しかし、上記のように、一文に複数の条件が記載されているもののうち、一方を満たしていない解答が 20 ポイントを占めた。児童が、日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導していくことが効果的であると考える。また、情報を読み取る練習として、新聞を読むことも考えられる。児童質問紙 20「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」、21「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらい行きますか」、22「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)」、24「読書は好きですか」の読書に関する項目からは、児童に読書の習慣が身に付いていることが伺える。一方で、23「新聞を読んでいますか」の項目からは、66%の児童が新聞を読む習慣が身に付いていないことが分かる。教師が新聞記事を紹介したり、調べ学習の選択肢の一つとして新聞を用意して必要に応じて情報を得られるようにしたりしておくのも効果的であると考える。

小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	711	10.5 / 16	65	11.0	3.6
富山県（公立）	7,533	10.4 / 16	65	11.0	3.6
全国（公立）	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

正答数分布　グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果　表【平均正答率：◎県以上】

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体		16	65	65	62.5
学習指導要領の領域	A　数と計算	6	◎72.5	71.4	67.3
	B　図形	4	◎48.1	48.0	48.2
	C　測定	0			
	C　変化と関係	4	◎73.2	72.7	70.9
	D　データの活用	3	◎68.6	68.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	◎69.3	69.0	67.2
	思考・判断・表現	7	◎60.2	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	60.1	60.5	57.7
	短答式	7	◎77.6	76.5	74.7
	記述式	4	◎50.4	49.6	47.3

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

小学校算数

結果の概要	○全体の平均正答率は、全体平均を2.5ポイント上回っており、県平均と同等である。 ○無解答率は、全ての問題において全国平均や県平均を下回っており、粘り強く問題に取り組む姿勢が身に付いている児童が多いことが伺える。 ●「図形」を柱とする領域では、全国の平均正答率を0.1ポイント下回っている。
各領域・評価の観点の分析	○「数と計算」領域において、全国平均を5.2ポイント上回っている。特に、「日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理する」問題(設問３(2))は、正答率が全国平均を６ポイント、県平均を2.2ポイント上回った。これは、市小教研として生活場面と関連付けながら問題場面を捉え、興味・関心をもって教材と関わることができるような教材研究を積み重ねてきたことで、示された日常生活の場面を解釈し、求め方や答えを記述する力が付いてきていると考えられる。また、分配法則や除法の筆算について、単にやり方を学ぶのではなくその意味を捉えながらの丁寧な指導により着実に基礎的な技能が身に付いてきていると考えられる。 ●「図形」領域では、４問中２問で全国平均、県平均ともに下回っており、この２問は両方とも「知識・技能」の観点の問題である。「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題(設問２(1))では、示された四角形を台形であることは理解できているものの、その定義を誤って解答している児童が多い。最も多い誤答は、「向かい合った２組の辺が平行な四角形」であり、「二つの辺」と「二組の辺」とを混同していると考えられる。 ・図形の意味や性質を正しく理解することに課題が見られることから、例えば、示されたいろいろな四角形について、平行などに着目して分類するなど、図形の意味や性質を見出したり、その意味や性質を基に図形を弁別したりすることで、図形の性質を繰り返し確認することが効果的である。また、「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題(設問２(3))では、正答率が21.2ポイントと低かった。この問題では、正三角形の意味や性質を理解しているとともに、どのような操作をすれば目的の図形が作れるのか見通しを立てる力が求められる。指導にあたっては、定規やコンパスによる作図、ひご等による構成、紙を折るなどの活動を十分に行うことを通して、帰納的に図形の意味や性質を理解できるようにすることが大切である。また、一人一台端末のシミュレーションアプリ等を活用し図形を動的に変形させることで図形についての感覚を豊かにすることも有効だと考える。いずれの問題も、図形の定義や性質の知識の定着に課題が見られることから、教科書上での理解だけでなく、十分な数学的な活動によって実感的に理解できるような指導が必要である。 ●「変化と関係」の領域の「伴って変わる二つの数量の関係が比例であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題(設問１(3))は県平均を1.3ポイント下回っている。解答類型から射水市では「7×48」という式を解答した誤答が全国や県に比べると多かった。これは、文章中の「４きゃく」「７kg」「４８きゃく」

という３つの数量から「４脚の重さが７kg である」という対応を見い出していすの数といすの重さの比例関係に気づくことができなかった、または、その比例関係を用いて、いすの数が 12 倍であることを求めたり、１脚あたりの重さを求めたりするという解決方法にたどり着くことができなかったと考えられる。伴って変わる二つの数量を考察し、比例の関係にあることを用いて、筋道立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようになることが大切である。伴って変わる二つの数量の関係を見い出す力を付けるためには、与えられた数量を表を用いて整理し、その関係や規則性を考察する経験を重ねることが必要である。また、比例の関係を利用して知りたい数量の大きさを求める力を付けるためには、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について「○が 12 倍になるから△も 12 倍になる」など変化の規則性を基に説明する活動を取り入れ、考えを深めることが効果的である。さらに、なぜそのような計算で答えが求められるのかを振り返り、比例の関係に基づいて解決できたことを確認することも大切である。

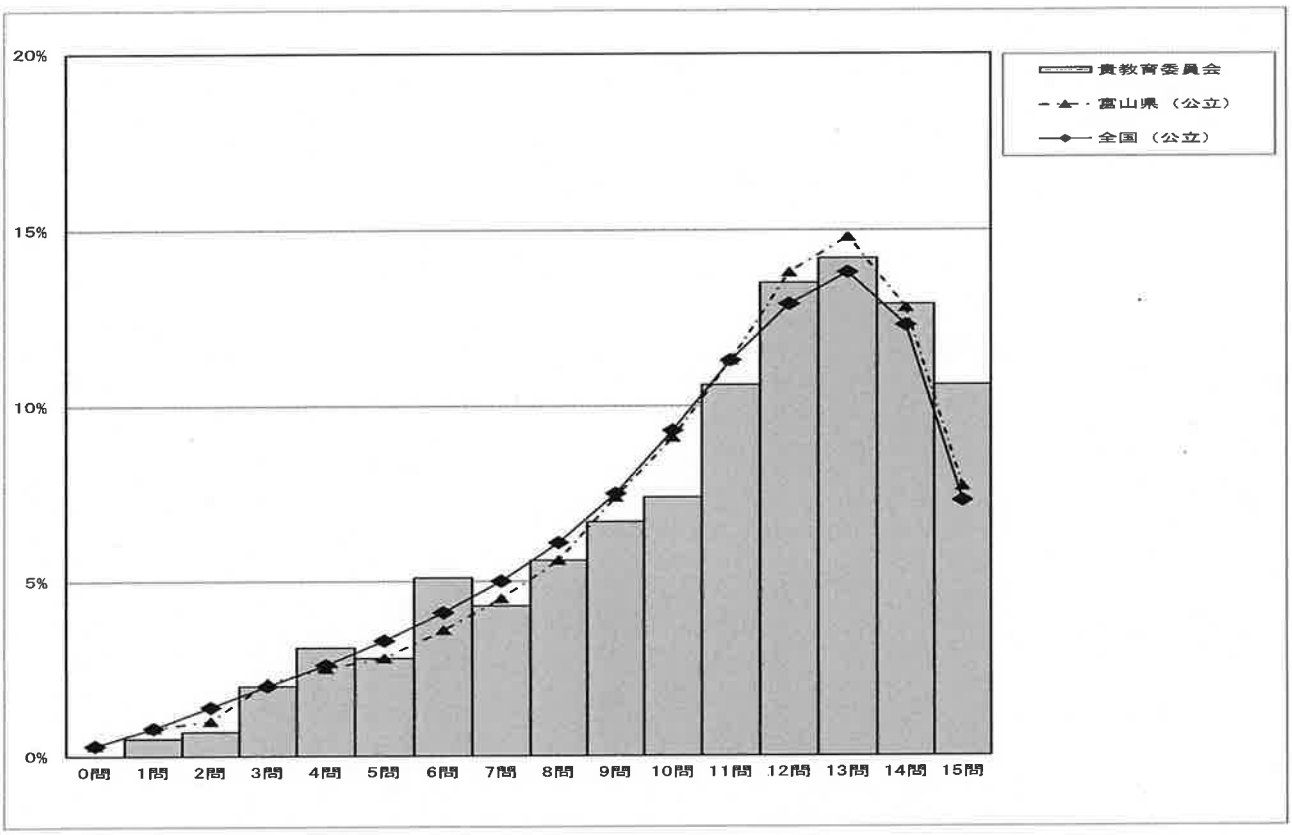
●「データの活用」領域の「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見い出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題（設問４(3)）では、無解答率が 10.4 ポイントと今年度の調査の中で最も高かった。この問題では例文が示されており、６年生のグラフと、５年生と６年生を合わせたグラフの両方から情報を読み取ることが求められるが、誤答例では５・６年生のグラフの読み取りだけを記述した児童が多い。情報量が多い問題文を正しく読み取り、理解する力に課題があると考えられる。日頃の授業において、問題文の大事なところに下線を引きながら情報を整理したり、言葉・表・図を関連付けたりすることで、最後までしっかりと問題を読むことを身に付けさせたい。「令和５年度【小学校算数】報告書」に記載されている授業アイディア例を授業に活用する等、情報量の多い問題に実際に取り組んでいくことも有効であると考えられる。また、複数のグラフを比べ、見い出したことを他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。例えば、グラフから特徴や傾向を捉えたり考察したりしたことを、キーワードで表して、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにしながら他者に分かりやすく伝える活動を取り入れることが考えられる。

○記述式の問題の正答率は、全国平均を 3.1 ポイント、県平均を 0.8 ポイント上回っており、無解答率もすべての問題で全国平均より低い。ペア活動やグループ活動を日常的に取り入れ、自分の考えを友達に説明したり、自分とは違う考えを聞いたりする対話的な学びを意識して授業を行ってきた成果と考える。引き続き、互いの見方や考え方を理解し、考えの良さを感じ合える場の工夫をしながら学習活動を進めていきたい。

中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	746	10.8 / 15	72	12.0	3.3
富山県（公立）	7,722	10.7 / 15	71	11.0	3.3
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

正答数分布　グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果　表【平均正答率：◎県以上】

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体			15	◎72	71	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	◎70.0	66.2	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	◎66.0	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	◎79.0	78.5	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	◎84.5	83.6	82.2
		B　書くこと	2	62.7	63.7	63.2
		C　読むこと	4	64.7	65.8	63.7
評価の観点		知識・技能	7	◎72.7	70.9	69.4
		思考・判断・表現	9	70.9	71.2	69.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	7	◎74.2	74.1	73.1
		短答式	4	◎69.6	66.8	65.6
		記述式	4	69.7	69.9	68.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

中学校国語

結果の概要	○全体の平均正答率は、全国平均を１ポイント、県平均を1.2ポイント上回っている。また、無解答率は全国平均、県平均に対して全ての問題において低かった。 ●「書くこと」を柱とする領域では、全国平均、県平均ともに下回っている。 ●「読むこと」を柱とする領域では、県平均を下回っている。
各領域・評価の観点の分析	○「知識及び技能」の問題においては、ほとんどの設問において、正答率が全国平均、県平均を上回っていた。これは、射水市中教研国語部会が、生徒が言葉を意識して思考・判断・表現できる言語活動を設定することを研究の主題として取り組んできた成果だと考えられる。授業において、漢字の小テストや文法のミニテストなどを継続的に行ってきたことが結実した。基本的な語彙力を指導するのにふさわしい教材を開発したり、単元構想を工夫したりするなど、今後も地道な言葉のトレーニングを行っていきたい。 ○「話すこと・聞くこと」に関する項目も全国平均、県平均を上回っていた。設問はインタビューに関するものであり、国語科としてだけでなく、総合的な学習の時間等で学んだことも試されていた。質問紙の43(総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、発表しているか)は「当てはまる」が全国平均よりも15.2ポイント上回り、「どちらかといえば当てはまらない」が8.6ポイント、「当てはまらない」が3.5ポイント下回った。これまで、総合的な学習の時間と連携し、インタビュー活動で聞きたいことを精選したり相手の考えていることを引き出したりすることを行ってきた。調べたことをまとめる際には、従来の新聞やレポートに加えて、タブレットを活用し、プレゼンテーションソフトや録音・録画機能を使った発表も考えられる。他教科との連携や教科横断型の授業に積極的に取り組んできたことが「話すこと・聞くこと」の育成になっていると考えられるので、今後も継続していきたい。 ●「書くこと」の設問は２問とも全国・県の平均点を下回っていた。質問紙の国１に対して、「最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒の割合が71.7ポイントと全国平均よりも2.6ポイント下回っている。また、この質問に対して無回答が9.1ポイント見られる。このことから本市の生徒の特徴として書くことへの意欲の低さがみられる。全体の無解答率は低いので、解答しようとする意欲を認め、解答に不足していたことを振り返るために、誤答ノートを活用することや同一問題を繰り返すことで、正しく解答する力を高める必要がある。設問３一は「もつ」を「もったため」に変えた理由を尋ねた問題であったが、解答類型によると、「理由を明確にしようとした」という表現がある「２」を選択した生徒が、全国平均より3.0ポイント、県平均より3.7ポイント多かった。表現を「ため」に変えたのは「理由」が原因だと考えた結果、誤答に誘導されたと思われる。本市だけでなく、全国的に「３」を選ぶ生徒が多いのは、破線部が「はじめに」にあるため、問題文に「きっかけ」の入った選択肢に誘導されたと考える。解答する際には、「正答となりうる部分」を見付けた段階で答えずに、他にも「正答になりうる部分」がないか確認し「一部は正解であるが、全てが正解ではない」というものは誤答となることを丁寧に確認する必要がある。文章を読む際には、傍線を引いたり、記号を記したりしながら読む習慣を身に付ける活動をしていきたい。 ●「読むこと」に関する大問２は、２つの文章を読み、それぞれの筆者の読書観の

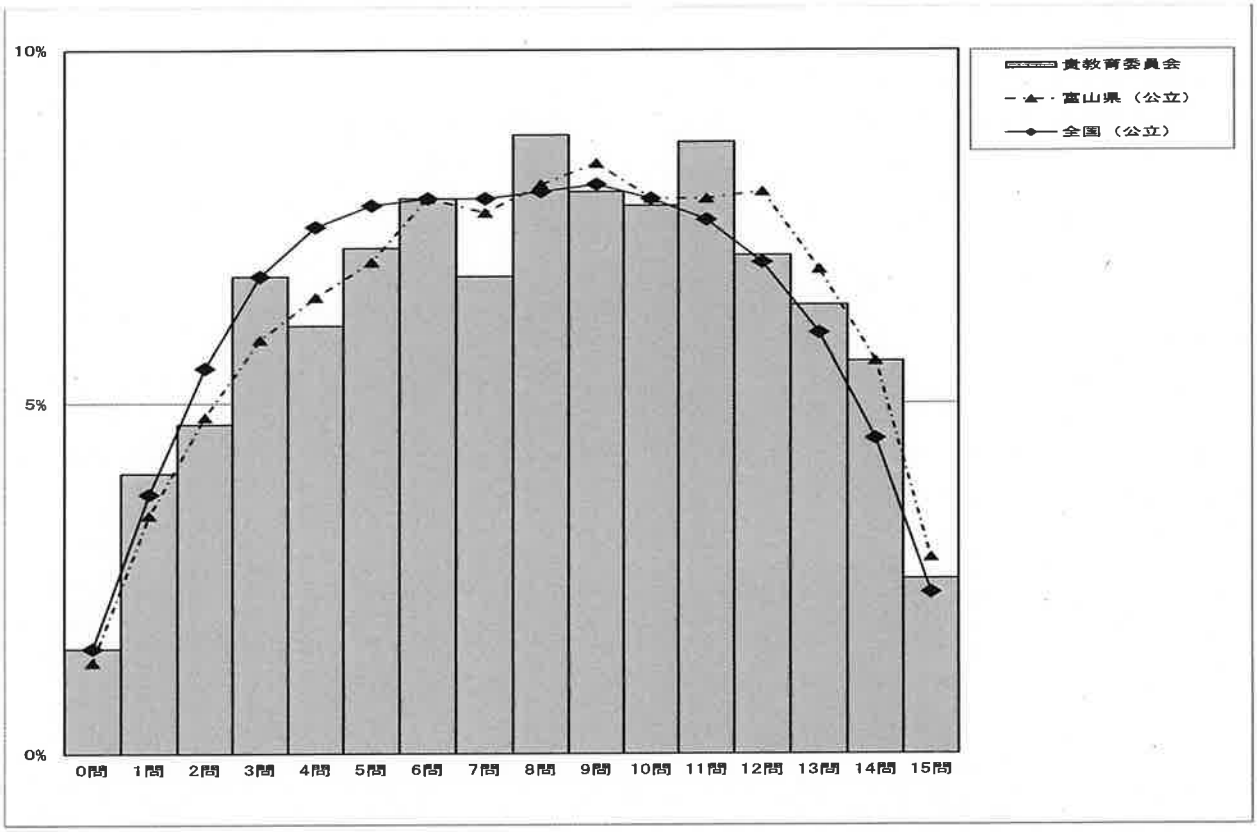
違いを読み取る問題であったが、３問とも県平均より低かった。特に、設問２三は全国平均より 1.1 ポイント、県平均より 2.6 ポイント下回っており、対策が必要である。文章についてまとめた内容がＡ・Ｂどちらの文章のことなのかを聞かれているが、解答類型から、全ての誤答が全国平均・県平均よりも多くなっており、長い文章を読む際にまとめることができていない実態が見られる。近年、本文は全て読まずに、傍線部の近くだけ読んで解答を探すという「テクニック」が流布しており、本文に書いてあることを一部しか確認せずに解答する生徒がいる。その原因は、「本文を読む時間がない」と言う生徒が多い。文章を簡単に要約する活動や異なる表現や筆者が書いた文章を結び付ける活動を帯学習として取り入れることが有効であると考える。また、設問２二の２つの文章を読み、共通する表現を選択する問題では、片方の文章にだけ書かれている「４」を選んだ生徒が県平均よりも 2.1 ポイント多かった。解答に当てはまるものを見付けたときに、もう片方の確認を取らず、慌てて選んでしまったと考えられる。これも、「書くこと」の設問３一と同じく、初読から必要な部分を見付け、傍線を引く活動を取り入れる等、文章全体を捉えながら、ポイントとなる文章を探し出す活動を取り入れたい。設問２四は文章から自分が着目した部分を抜き出し、自分の読書に関する経験や知識に触れながら、今後の読書活動について決意を表明する問題である。誤答として、主張の根拠となる部分を抜き出さずに決意を表明しているものが全国より 2.7 ポイントも多かった。意見を述べることはできても、根拠を示すことは苦手に感じているのかもしれない。短文を読み、根拠を示して自分の意見を書く（話す）活動を行うなど、根拠を見付け、挙げる活動を取り入れることが効果的であると考える。

●今回の調査で、本市の生徒の解答傾向として、「楽しさ」や「面白さ」、「今後の活動への意欲」を問うた問題の解答率が低かった。これは、学ぶことに対して「楽しい」や「面白い」と感じていない生徒が多いからではないかと考えられる。質問紙の 47（国語は好きか）に対して、「どちらかといえば、当てはまらない」が全国より 5.7 ポイント、「当てはまらない」が 3.5 ポイント多くなっており、国語の学習に興味をもっているとは言い難い。授業では、国語の楽しさ、言葉を扱う喜びを感じられる活動を取り入れていきたい。例えば生徒がタブレットでお薦めの本紹介の動画を作成する学習活動が考えられる。また、教師が本気でビブリオバトル（本を紹介するコミュニケーションゲーム）をする姿を見せることで、生徒の意欲を喚起し話す力の向上や生徒同士の関わりを促す効果が期待できる。さらに、生徒の読書活動の意欲付けとなる。自分の思いを表現する短歌や俳句を創作する学習では、歌会や句会をすることで、普段交流の少ない生徒同士の交流を促し、認められることで自らよりよい表現を模索する姿につながる。文章を読み取る授業では、助詞の違いに注目し、「もし、〇〇だったらどう違うか」を話し合う等の展開の工夫によって、たった１音の違いで読み取りの印象が変わることに気付き、物語の面白さや言語表現の奥深さに気付く。このような生徒の喜びや楽しみにつながる授業を国語科の教員で共有し、実践していく必要がある。

中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	748	7.9 / 15	53	8.0	3.9
富山県（公立）	7,724	8.1 / 15	54	8.0	3.9
全国（公立）	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

正答数分布　グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果　表【平均正答率：◎県以上】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体		15	53	54	51.0
学習指導要領の領域	A　数と式	5	62.5	63.7	63.0
	B　図形	3	33.0	35.8	33.2
	C　関数	4	◎55.0	54.5	51.2
	D　データの活用	3	53.0	53.8	48.5
評価の観点	知識・技能	10	56.9	57.9	55.7
	思考・判断・表現	5	44.4	45.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	45.8	47.0	45.3
	短答式	6	64.3	65.2	62.6
	記述式	5	44.4	45.1	41.6

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

中学校数学

結果の概要	【平均正答率】 ● 全国平均を２ポイント上回っており、県平均を１ポイント下回っている。 【学習指導要領の内容】 ○ Ｃ関数領域は全国平均、県平均をともに上回っている。 ● Ａ数と式領域、Ｂ図形領域は全国平均、県平均をともに下回っている。 ● Ｄデータの活用領域は全国平均を上回っているが、県平均は下回っている。 【評価の観点】【問題形式】 ● すべての区分において、全国平均を上回っているが、県平均は下回っている。 【無解答率】 ○ 概ね全国平均、県平均に対して無解答率は低い。一方で文章や表、グラフを読み取って説明する問題に対して無解答率が一部高い問題が見られる。
各領域・評価の観点の分析	○ 「思考・判断・表現」に関わる問題の正答率は、多くの問題で全国平均よりも上回っている。県平均に対しては、同等か下回っているものもあった。授業での問題練習やプリント学習等で、時間をかけて繰り返して反復練習したり、ペア学習やグループ学習で説明し合ったりすることで学習内容の定着を図る指導がなされていると考えられる。 設問６（２）では、全国平均を 4.0 ポイント、県平均を 1.2 ポイント上回った。設問８（３）では全国平均を 3.6 ポイント、県平均を 1.0 ポイント上回った。授業においては、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明することについて定着が図られている状況がうかがえる。 ● 「知識・技能」の観点については、言葉の意味や定義を正確に理解することや、解法を理解しその計算方法を身に付けるために、授業での問題練習やプリント学習等で、時間をかけて繰り返して反復練習する指導が必要と考えられる。また、ＡＩドリルを活用し、個に応じた苦手な部分の克服を行うとともに、得意な部分を伸ばす指導を行いたい。 ① 設問１では、自然数の意味を理解しているかを問う問題であった。平均正答率は、37.3 ポイントであり、全国平均を 8.8 ポイント、県平均を 4.9 ポイント下回っている。誤答例としては、自然数に０を含めてしまう誤答が多く見られた（36.0 ポイント）。このことは、県（32.7 ポイント）や全国（30.1 ポイント）の誤答にも同じ傾向が見られる。このことから、自然数の範囲について、間違った理解をしていることが分かる。整数と自然数の違いを数直線や集合を用いて明確にするなど数学的な用語を正確に理解させることが必要である。他の領域においても同様のことが考えられる。数の範囲を指導する際には、無理数の範囲について、根号を用いた数以外にも、π も忘れずに指導することが必要となる。 ② 設問３では、空間における平面が同一直線上にない３点で決定されることを問う問題であった。平均正答率は、30.1 ポイントであり、全国平均を 0.3 ポイント、県平均を 2.5 ポイント下回っている。誤答例としては、空間における平面が同一直線状にある３点で決定される誤答（38.0 ポイント）が多く見られた。これらのことから、空間における平面の決定条件が正しく理解されていないことが分かる。本問からは、空間における３点で平面が決定できることは理解しているが、

３点の位置関係によっては平面が決定しないことがあることを理解していない場合が考えられる。具体的には、「空間における３点」の位置関係については、生徒自身が３点を任意にとり、平面が決定する場合と決定しない場合があることを操作を通して実感的に理解できるようにすることが大切である。また、「同一直線上にない３点」や「空間における１本の直線とその直線上にない１点」というように空間における平面の決定条件について言葉を変えて表現することで、空間における平面の定義のいろいろな見方や考え方が身に付けられるよう学習することが生徒のより深い理解につながると考えられる。同様に、直線や平面が決定される条件や、直線や平面が決定できない条件（３点目の扱いや４点目の扱い）、そして平行や垂直、ねじれの位置等の関係について、点と直線、平面の位置関係から整理して指導する必要があると考えられる。

③　設問５では、累積度数の意味を理解しているかどうかを問う問題であった。平均正答率は、44.8ポイントであり、全国平均を1.3ポイント、県平均を1.1ポイント下回っている。誤答例としては、累積度数ではなく、相対度数を答える誤答（11.8ポイント）や累積相対度数を答える誤答（5.7ポイント）があった。このことから、データの活用領域における用語を正しく理解していないことが分かる。一つ一つの用語を正確に理解できるよう、実際のデータを基に、累積度数、相対度数、累積相対度数を並記する活動を行い、違いを明確にすることが必要である。

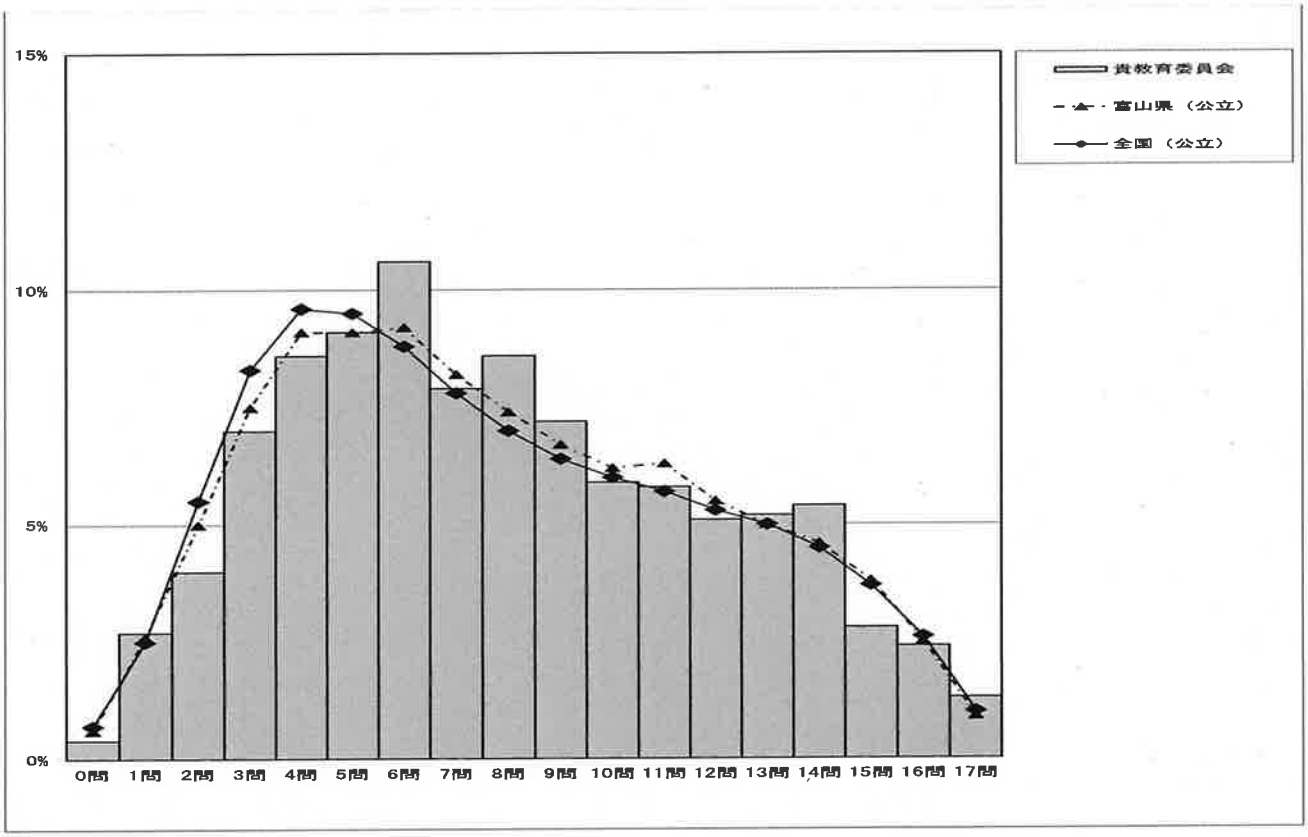
④　設問９（２）では、図形の条件を変えた際に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかを問う問題であった。平均正答率は、36.9ポイントであり、全国平均を0.1ポイント、県平均を3.1ポイント下回っている。誤答例としては、条件が変わった際、△ＡＢＥはＡＢ＝ＡＥの二等辺三角形のままであるにも関わらず、∠ＡＢＥ＝∠ＡＥＢ（二等辺三角形の底角は等しい）が成り立たないを選ぶ誤答が（16.7ポイント）あった。問題文中に「二等辺三角形ではない形に変えました」とあることで、誤答につながったと考えられる。このことから、図形の条件が変わったことによって図形のどの部分が変化したのかを正確に理解できていない実態が分かる。授業の中で、図形の条件が変わったときに、図形のどの部分がどのように変わったのかを比較検討し、図形にどのような影響があるのかを考える場を設定する必要がある。また、図形の条件が変わったことによって、図形のどの部分が変化したかを正確に読み取るためには、変化した図形を正確に描き直したり、生徒同士でどの部分が変化したかを話し合い、自分の力で説明する場をつくったりすることが必要である。

○　無解答の割合は、県平均や全国平均に比べて低い設問が多い。このことは、昨年度の分析・考察を元に、生徒同士が互いの考えを出し合いながら、試行錯誤して深め合う授業を行ってきた成果だと考えられる。また、解答としてどんな観点（視点）からどんな考察をして記述すべきかを生徒に明確にしたり、意識させたりすること、生徒が考え方を伝え合った上で自分の答えを見直し修正した答えを書く作業を授業に取り入れたりしてきた成果と考えられる。継続して指導していきたい。

中学校英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	746	7.9 / 17	47	7.0	4.0
富山県（公立）	7,719	7.9 / 17	46	7.0	4.1
全国（公立）	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

正答数分布　グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果　表【平均正答率：◎県以上】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体		17	◎47	46	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	◎61.4	58.7	58.4
	(2) 読むこと	6	51.7	51.8	51.2
	(3) 話すこと［やり取り］	0			
	(4) 話すこと［発表］	0			
	(5) 書くこと	5	23.2	24.8	23.4
評価の観点	知識・技能	9	52.1	52.4	51.5
	思考・判断・表現	8	◎40.7	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	◎56.5	55.3	54.8
	短答式	3	28.6	31.3	30.1
	記述式	2	14.9	15.0	13.5

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

中学校英語

結果の概要	○全体の平均正答率は、全国平均を1.4ポイント、県平均を1ポイント上回っている。 ○無解答率が、全国平均、県平均に対しては高い問題は設問5(2)1問だけであり、積極的に問題に取り組んでいる。 ●学習指導要領の領域別にみると、4技能のうち「読むこと・聞くこと」は正答率が50%を超えたが、「書くこと」は23.2ポイントと低い。「読むこと」の観点では全国平均より0.5ポイント上回っているが、県平均より0.1ポイント下回っている。「書くこと」の観点では、全国平均より0.2ポイント、県平均より1.6ポイント下回っている。
各領域・評価の観点の分析	○「聞くこと」の領域における「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」問題の設問1(1)は全国平均を6.5ポイント、「水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する」設問4は全国平均を8.3ポイント上回っている。これは、市中教研英語部会において重点的に取り組んできた、ICTの活用やALTとの効果的なチームティーチング等、日頃の授業を通して生徒が自然な口調で話される英語に慣れ親しめるよう工夫してきたことが一定の成果を収めたものと考えられる。 ●「書くこと」の領域では、特に、「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」問題の設問9(1)②は全国平均よりも4.4ポイント、県平均よりも3.8ポイント下回っている。誤答類型から、全国に比べ「一般動詞の2人称単数形以外の疑問文を書いている生徒」と「疑問文を書いていない生徒」が多い。“Yes, I got it yesterday.”と“At a department store near the station.”という英文の間に入る、時計を買った場所を聞く質問をつくることが難しかったのではないかと考える。質問、解答というパターンには慣れているが、会話が続く中で質問文を考えるという活動を多く取り入れていくことが必要だと考える。 ・同じく設問9(1)①は全国平均よりも0.7ポイント、県平均よりも2.6ポイント下回っている。誤答類型から、全国に比べ「未来表現以外の肯定文」を答えて間違っている。“Yes, I (visit) my uncle in London.”という英文には文末に未来を表す副詞等がついていなかったことが未来形以外の肯定文を答えた原因ではないかと考える。未来を表す副詞があるないに関わらず、会話の内容からその文章がどの時制を表すのか理解する必要がある。 ・また、「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」問題の設問8(2)は全国平均よりも2.2ポイント、県平均よりも0.1ポイント上回っているが、無解答率が24.0ポイントとすべての問題の中で最も高かった。このことから、まとまりのある文章を書く力が不足していることが考えられる。また、誤答類型は、自分の考えは書けたが、どうしてそう考えたのか理由を書くことができなかった生徒が30.0ポイントいた。自分の意見を考えたり表現したりする経験が乏しいことがこの結果につながったと考える。今後は、語彙や文法だけでなく、英文の論理構造を理解する必要がある。論理構造を学ぶことにより、英文を速く読めるようになり、書いたり話したりする

ときに役に立つと考える。その上で、日頃から授業の中で、学校生活の中で、なぜそう思うのか、理由を考え、書いたり話したりする活動を多く行っていく必要がある。

●知識・技能に関する問題では、特に「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」設問７(1)は、全国平均よりも 4.6 ポイント、県平均よりも 3.6 ポイント下回っている。限られた時間の中で、書かれていることを１文１文すべて読み取るのではなく、文章全体を捉えて必要な情報を読み取ることができる活動を取り入れていく必要がある。誤答類型から本市の生徒は Like this を多く選択している。「このように」は理解しているが、使い方を間違えているのではないかと考えられる。正解の選択肢の後ろには、人々が図書館でどのようなことができるのか例が述べられている。そのように例を述べる場合は Like this ではなく For example を使う必要があるが、ただ単に熟語の意味を知っているだけでは実際に使用することは難しい。そのため、単語や熟語の意味を理解するだけではなく、どのような場面で使用するのか理解するために学習した単語や熟語を活用した表現活動を設定していくことが大切だと考える。

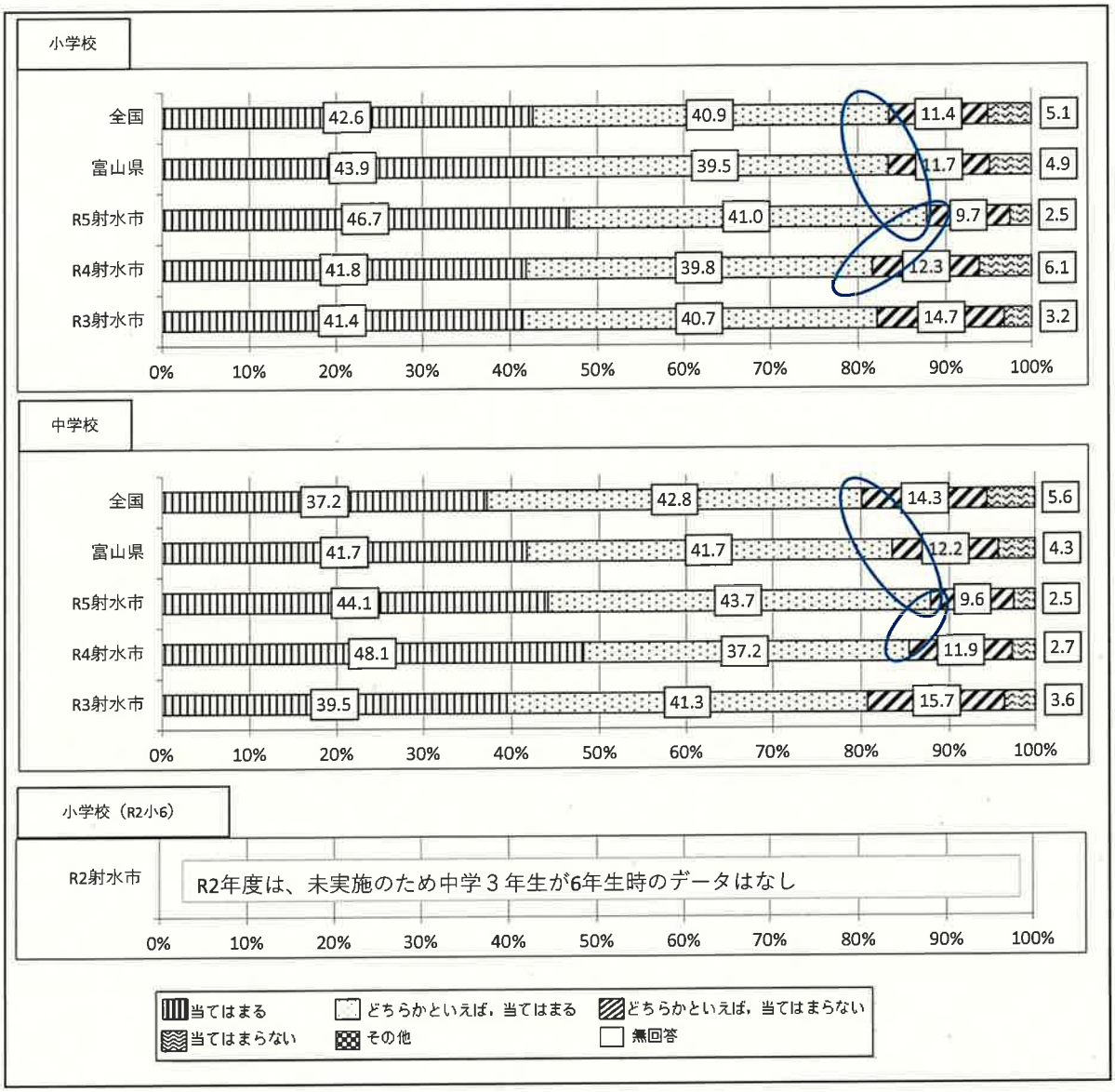
・設問７(2)の正答率も全国より低くなっている。比較的長い４つの英文から、文章の概要を表すものを選ぶ問題である。正解は１だが、誤答の３を選んだ生徒が 26.1 ポイントと多かった。この２つの文章は１文目と４文目が同じ英文になっている。そして３に書いてある英文も間違っているわけではないので、１と迷い、結果、間違えたと考えられる。３と判断した原因として、選択肢文の中に、問題文で使用されている単語が多いことが考えられる。正解の１には、本文で使われていない単語がある。このことから、問題を解くときには「本文の中に答えがある」という意識が強いことが考えられる。授業においては、生徒自らが長い文章を短く表現する活動を取り入れことが必要だと考える。その際、生徒が考えた多様な言い回しを認めることが、いろいろな表現が可能であることを体感するために効果的だと考える。

●「聞くこと」の領域における「バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する」問題の設問３の正答率は全国より下回っている。正解は３だが１と解答した生徒が 27.9 ポイントいる。選択肢１は、リスニングで最初に聞こえてきた英文と同じ表現だったため、英文の意味を理解できなかった生徒たちは、ただ単に聞こえてきた英文に聞き覚えがあったので１を選んだのではないかと考える。日ごろの授業から、必要な部分だけを取り出すのではなく、英語文全体を捉えて、何が書かれているか理解する活動を取り入れていく必要がある。

3　学習状況調査の結果及び考察　＜抜粋＞

（１）児童・生徒質問紙より

①　自分には、よいところがあると思う



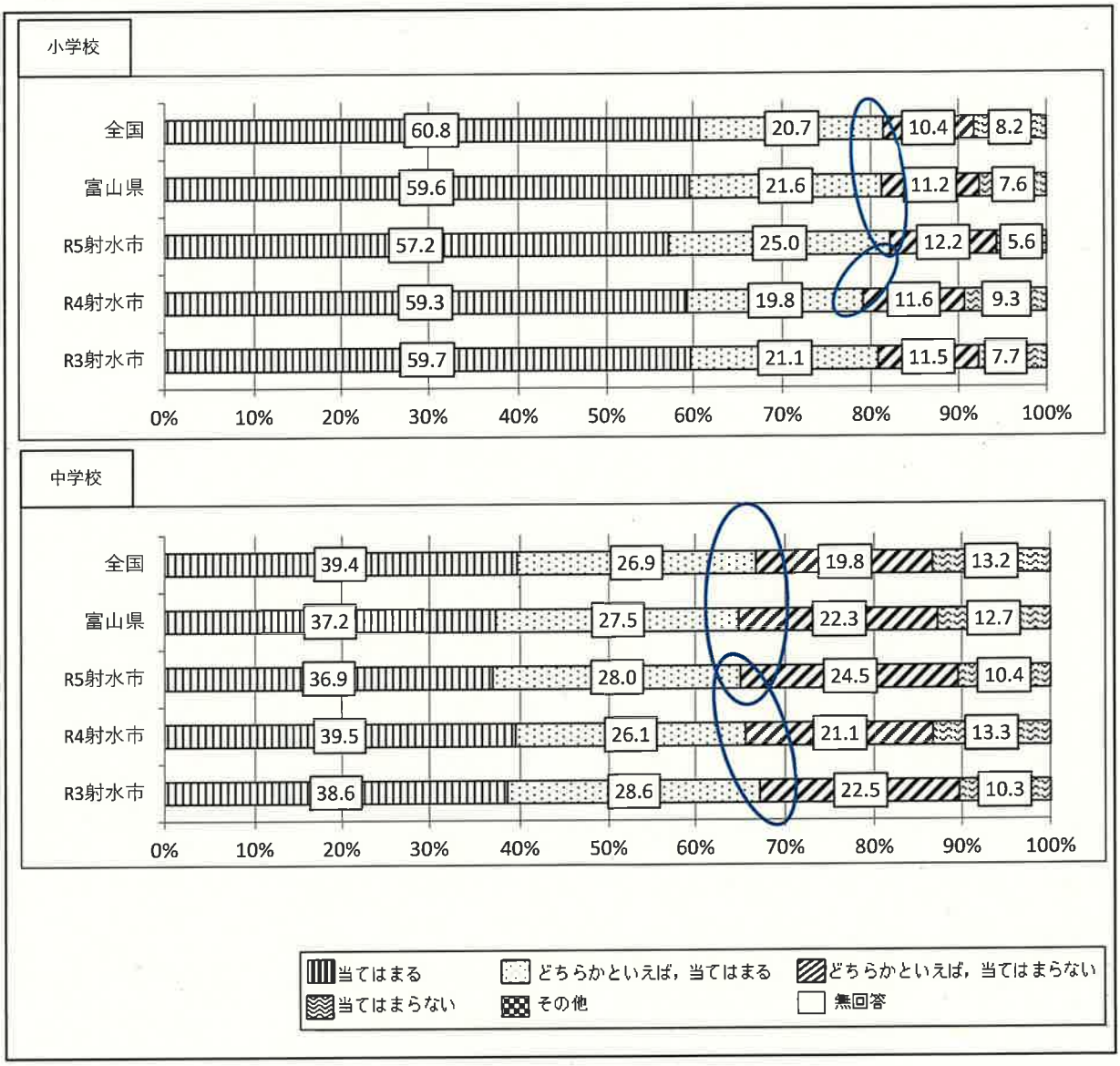
【考　察】

「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値は、小学校において全国平均より4.2ポイント、県平均より4.3ポイント、中学校の全国平均より7.8ポイント、県平均より4.4ポイント上回っており、小・中学校共に自己肯定感が高い結果となっている。学校質問紙③「学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」の項目で、小・中学校どちらも高いポイントを示していることからも、市全体で「射水スタンダード」を意識し、「自尊感情」の育成を図る教育活動を継続して実践している成果であると考えられる。

また、昨年度と比べると、小学校で6.1ポイント、中学校で2.5ポイント増加している。コロナ禍による学校行事等の制限が緩和され、児童生徒が活躍できる場、達成感が得られる機会が増えたことが影響したと考えられる。

今後も、「学び合う集団づくり推進事業」を基盤に、「人間関係づくり、学年・学級経営」と「学力向上、授業力向上」の二面から学び合いの成立と高まりを推進すること、行事や学習等における振り返りを通して、児童生徒が自らの成長を実感するとともに相互によさを認め合う機会を積極的に設けることが大切である。

② 将来の夢や目標を持っている



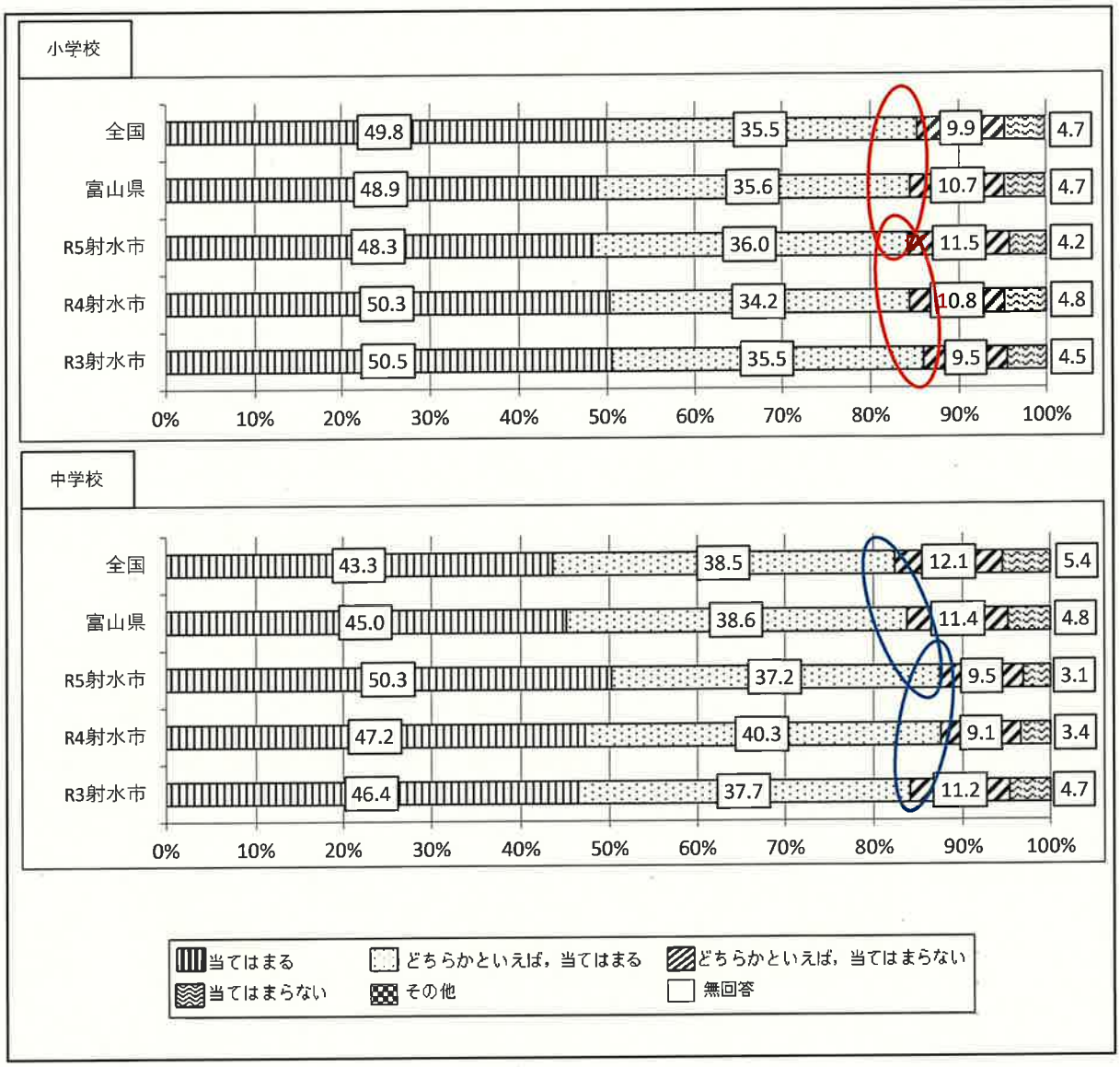
【考　察】

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合は、県平均より小学校は1.0ポイント、中学校は0.2ポイント上回っている。全国平均との比較では、小学校は0.7ポイント上回り、中学校で1.4ポイント下回っている。昨年度とほぼ同様の傾向であった。

昨年度との比較では、小学校では3.1ポイント増加し、中学校では0.7ポイント減少している。小学校では増加傾向にあるものの、コロナ禍前と比べると依然低い値である。

学習指導要領総則に示されている通り、学校教育全体でキャリア教育に取り組むことが求められており、小中が連携してキャリアパスポートを活用しながら系統的、計画的にキャリア教育に取り組むことが大切である。特に、先行きが不透明で将来に希望を抱きづらい状況下で、理想と現実の差に悩む生徒も少なくない中学校では、将来の夢や進路への憧れ、具体的な目標意識をもたせる指導の工夫、充実が求められる。

③　学校に行くのは楽しいと思う



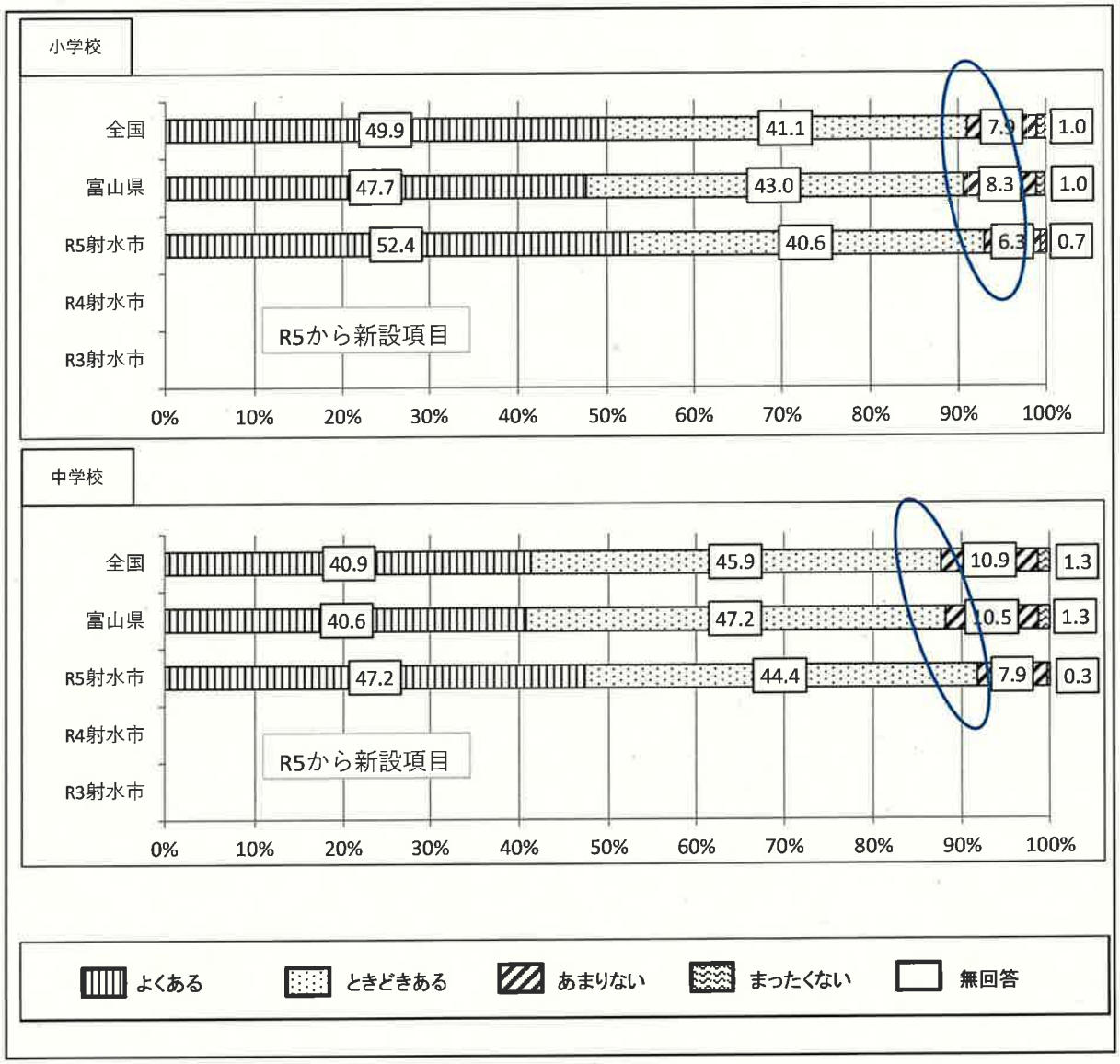
【考　察】

「当てはまる」の値は、小学校で全国平均を1.5ポイント、県平均を0.5ポイント下回り、中学校で全国平均を7.0ポイント、県平均を4.7ポイント上回る結果となっている。「どちらかといえば、当てはまる」を含めると、小学校は84.3ポイントで全国平均をやや下回り、中学校は87.5ポイントで、全国・県平均を大きく上回っている。特に中学校では「学校が楽しい」と感じる生徒の割合が大きい。昨年度との比較では、小・中学校共にほぼ同じであった。

中学生は、日常的な学校生活が元に戻ったことで学校に行くのが楽しいと実感できる生徒が多い。一方で、小学生は学校に行くのが楽しいと思う児童が少ない。小学生の方が制限された生活の影響が大きいと考えられる。

今後も児童生徒が分かる・できると感じることのできる授業改善を進めたり、友達との感情交流ができる行事を実施したりするとともに、「当てはまらない」（楽しくない）と回答した児童生徒や、データに現れない不登校児童生徒に対して、個に応じたきめ細かな支援を充実させていくことが望まれる。

④　普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある

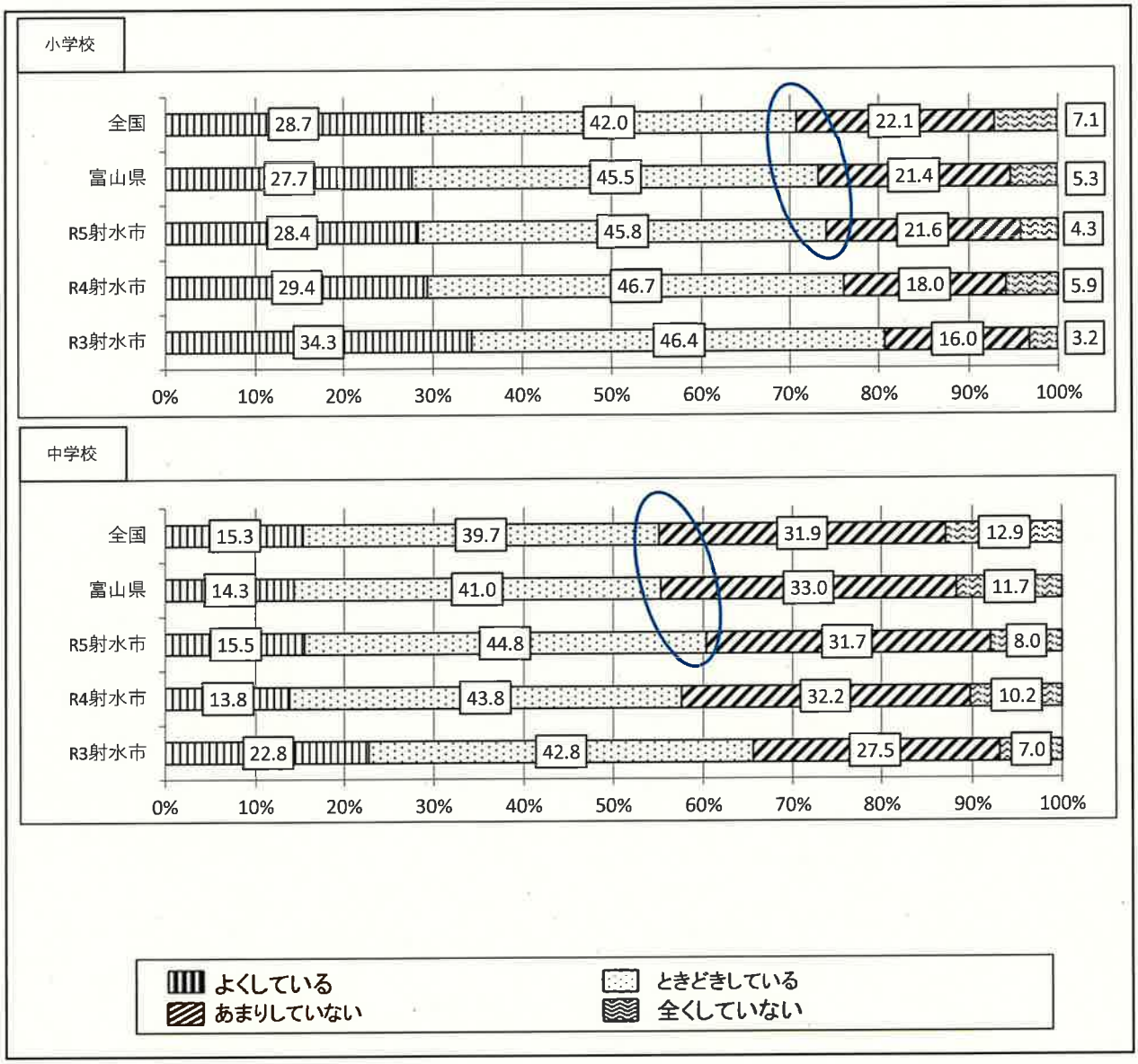


【考　察】

今回新規に追加された項目である。「よくある」、「ときどきある」を合わせた値は、小学校の全国平均より2.0ポイント、県平均より2.3ポイント、中学校では全国平均より4.8ポイント、県平均より3.8ポイント上回っている。いずれも肯定的に回答している児童生徒の割合が9割を超えている。

今回同じく新規に追加された「友達関係に満足していますか」の項目や、「自分にはよいところがあると思う」の項目でも全国・県平均を上回っているように、本市の児童生徒は自尊感情や幸福感が高い傾向がある。文部科学省の分析に「主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性がある」とあるが、本市の児童生徒にも当てはまると考えられるため、今後も、授業だけでなく様々な教育活動において、その視点をもって児童生徒に関わっていくことが大切である。

⑤　家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）

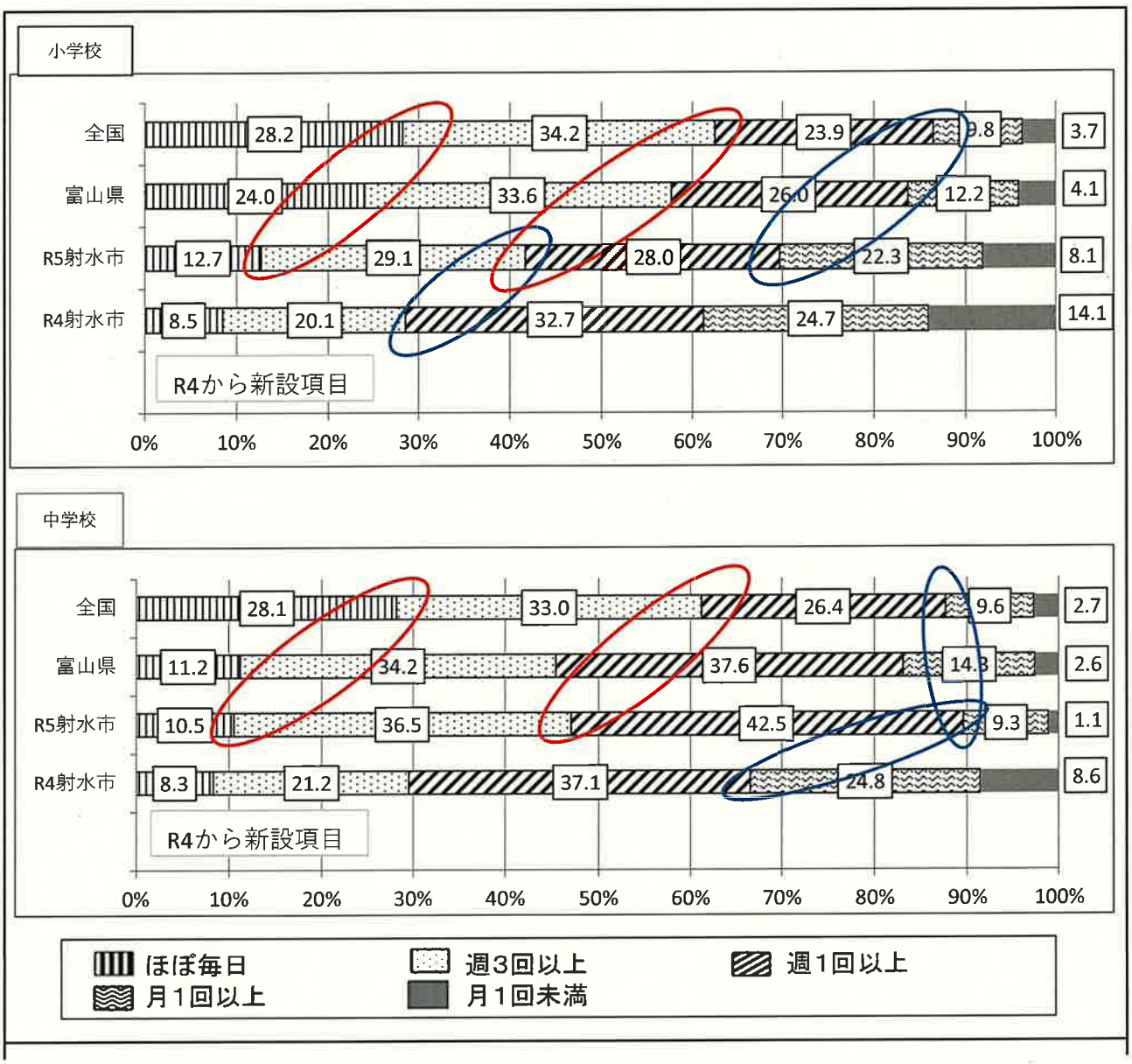


【考　察】

「よくしている」「ときどきしている」を合わせた値は、小学校が74.2ポイントで、全国平均を3.5ポイント、県平均を1ポイント上回っており、中学校は60.3ポイントで、全国平均を5.3ポイント、県平均を5ポイント上回っている。全国や県と比べて、小・中学校共に計画を立てて勉強している児童生徒の割合が高い。一方、経年比較でみると、小・中学校共にR3年に比べて低い値となっている。クロス集計から「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の平均正答率は、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒より、国語・数学（算数）・英語共に高いことが分かり、計画を立てて勉強することと学力には相関性があると考えられる。

小学校では、本市全体の取組である「進んで学ぶ射水っ子」のノートカバーを活用した家庭学習の推進が定着し、家で計画的に予習・復習を行うことに一定の成果を上げているといえる。その一方で、新型コロナウイルス感染防止のための一斉休業等で高まった、計画的に学習へ取り組む習慣を、今後も継続していけるような取組が望まれる。

⑥　学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか（インターネット検索など）



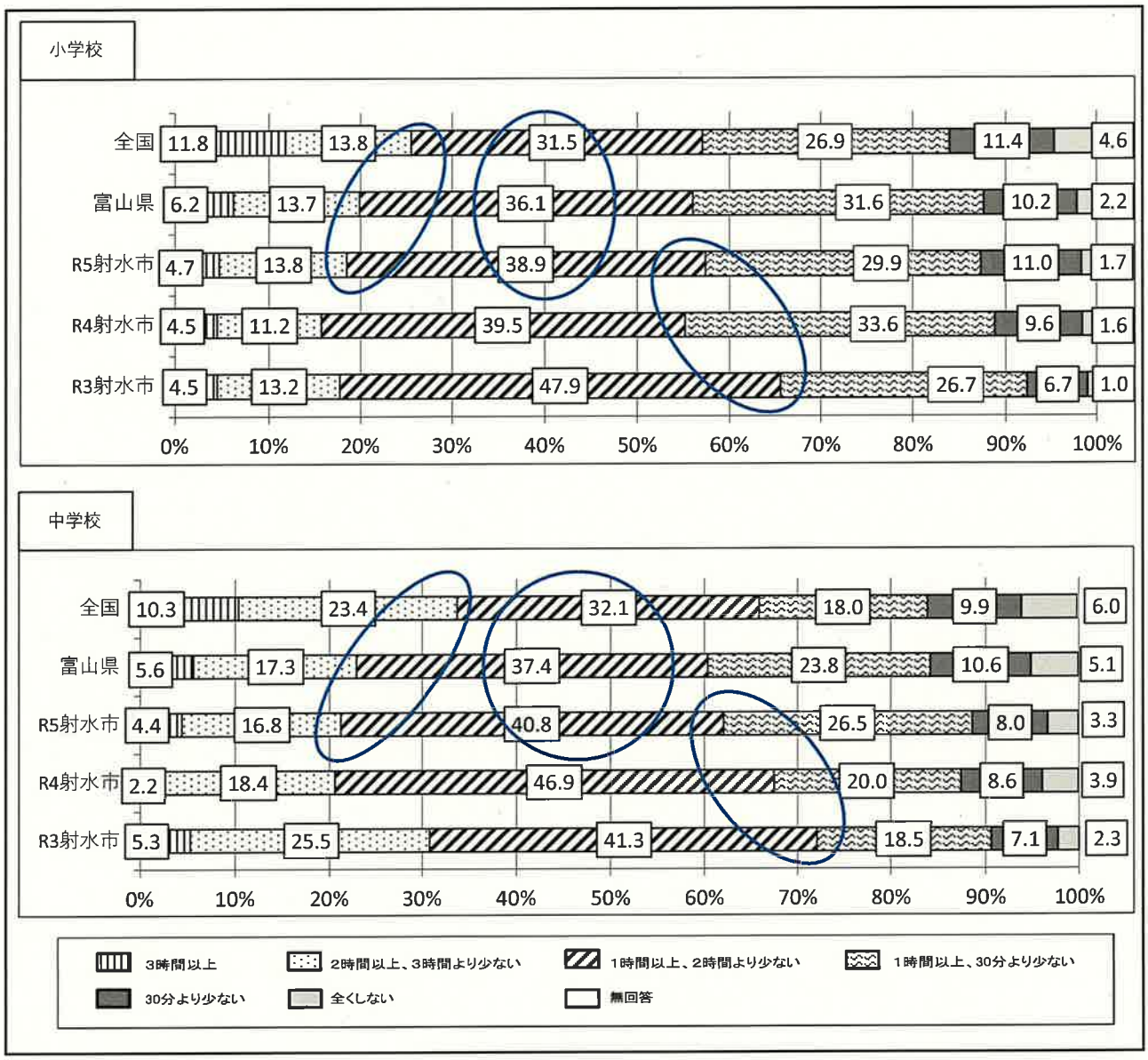
【考察】

小学校においては、昨年度より「週3回以上」使用していると回答した児童は13.2ポイント増加している。中学校においては、「週1回以上」使用していると回答した生徒は89.5ポイントで、全国平均より2ポイント、県平均より6.5ポイント、昨年度より22.9ポイント上回っている。中学校においては、授業にPCやタブレットを使った調べ学習を意図的に取り入れていることがうかがえる。小中学校共に改善の傾向が見られるが、全国と比較するとどちらも「ほぼ毎日」を選択した児童生徒は、かなり少ない。

クロス集計では学力との相関性は見られないものの、児童生徒が生きていく時代を考えると、ICT機器を筆記用具のように使いこなす資質能力の育成は喫緊の課題である。

小学校での調べ学習を行う授業は、単元等によって取り組む時期に偏りがあることや、図書や資料、現地学習等で調べることが多いこと等が、上記の結果につながっていると考えられる。今後は、ICTの有効かつ正しい利用をさらに促進し、ICTを併用したより充実した調べ学習に取り組んでいくことが望まれる。

⑦　平日学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。



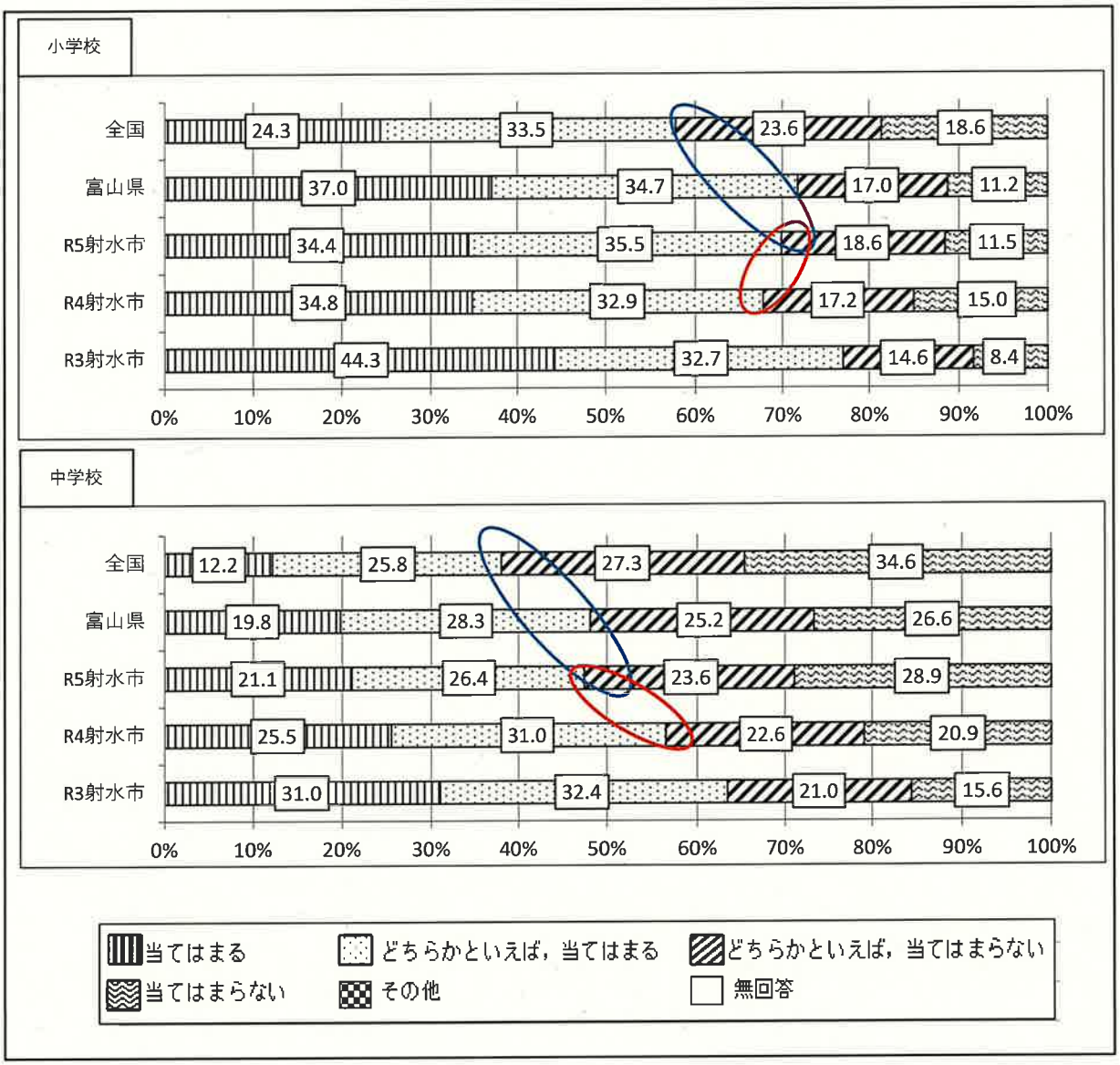
【考察】

小・中学校共に、2時間以上家庭学習等に取り組む児童生徒は全国平均県平均より少ない。一方、1時間以上2時間未満の児童生徒は全国平均県平均より多い。クロス集計表を見ると、「1時間以上2時間未満」家庭学習をしてると答えた児童生徒の平均正答率が、どの教科においても高い。経年比較では、小・中学校共に1時間未満の児童生徒が増加の傾向にある。

小学校は、本市全体の取組である「進んで学ぶ射水っ子」のノート表紙を活用した家庭学習の推進が一定の成果を上げてきたが、家庭で取り組む課題の提示や更なる意欲付けを工夫する必要があると考える。中学校は、家庭学習2時間以上を目標に、ネット利用状況とも関連付けながら、家庭学習時間の確保、増加を図っていく必要があると考えられる。

また、家庭学習に取り組めない原因として、何をすればよいか分からないと考えている児童生徒もいると考える。本市で導入しているAIドリルは、整備されている一人一台端末での使用が可能であり、積極的に活用を促すことが家庭学習の充実の手立てとなると考える。

⑧　今住んでいる地域の行事に参加している

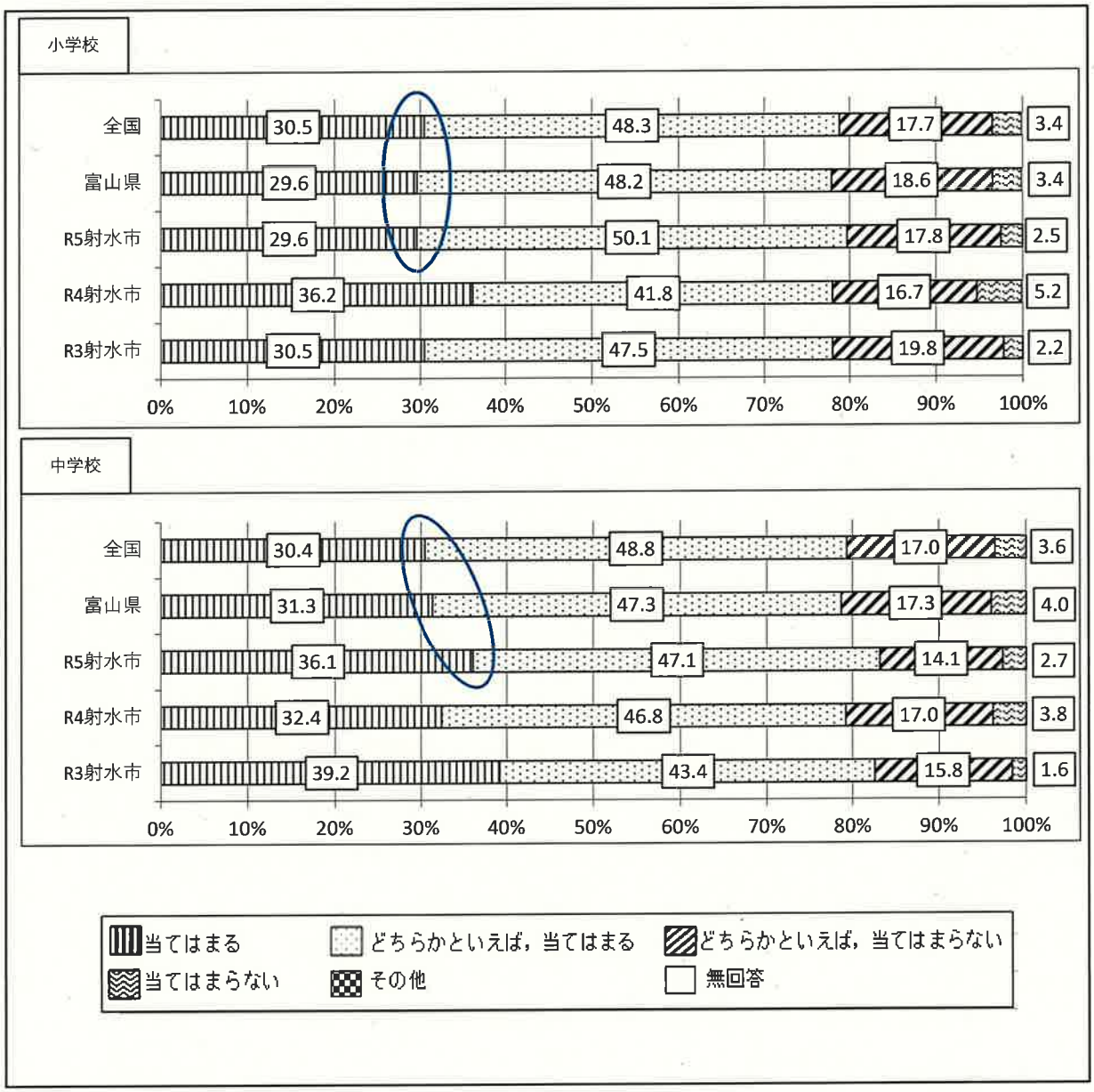


【考　察】

「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値は、全国平均より小学校では12.1ポイント、中学校では9.5ポイントと、大幅に上回っている。県平均との比較では、小学校では1.8ポイント、中学校では0.6ポイント下回っている。昨年度との比較では、小学校では2.2ポイント増加し、中学校では9ポイントと大きく減少した。コロナ禍による地域行事の中止や縮小の影響で減少の一途をたどっていたが、小学校ではやや回復した。一方で、中学校では減少傾向に歯止めがかかっていない。

今回新規で追加された「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目では、小学校では8割、中学校では7割の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しており、多くの児童生徒が地域貢献に前向きな気持ちをもっていることがうかがえる。様々な教育活動を通して、地域の発展を願う気持ちを育むとともに、防災や防犯の観点からも、地域の一員としての自覚をもつことの大切さを伝えていくことが望まれる。

⑨　授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

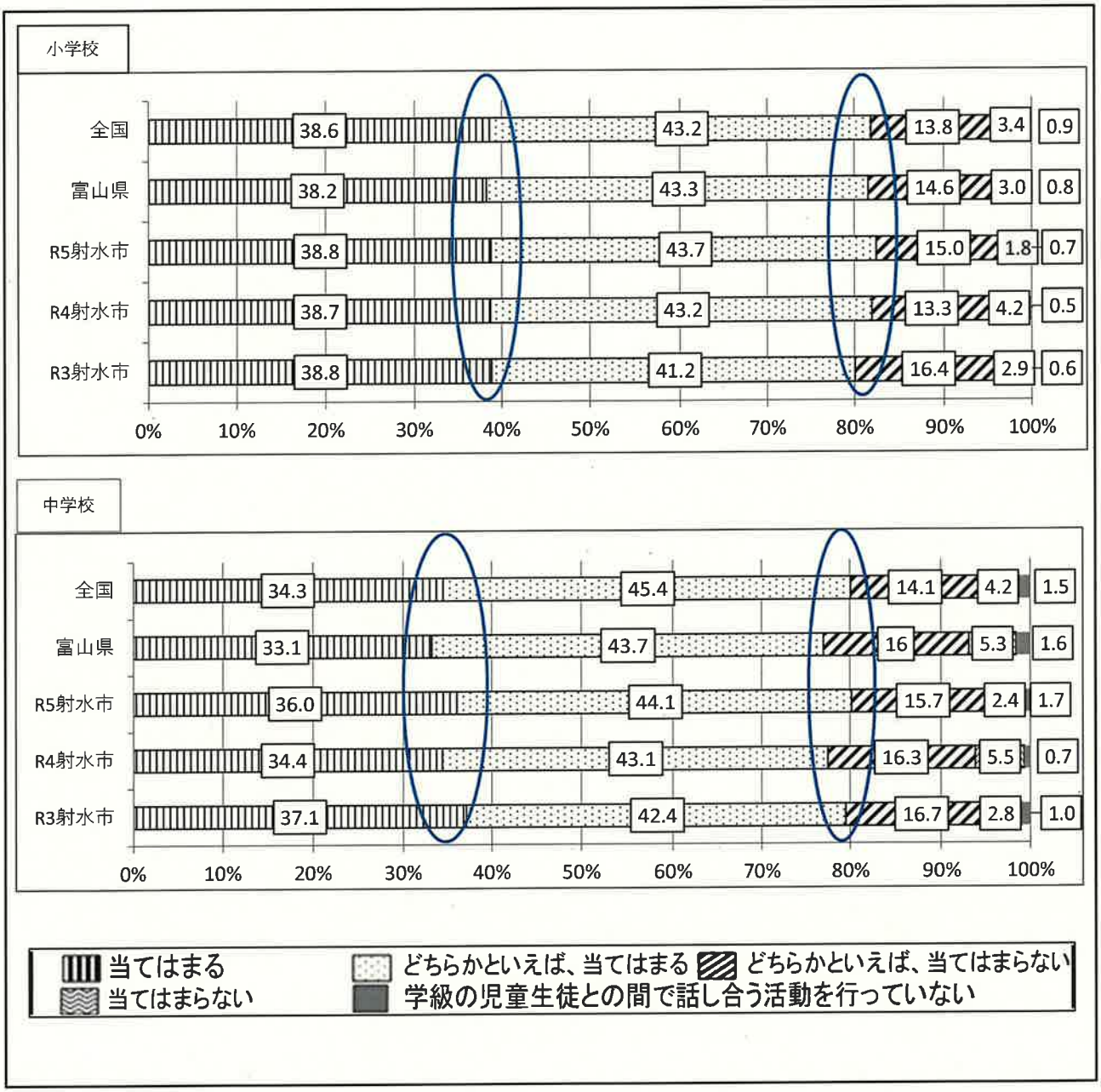


【考　察】

小学校は、「当てはまる」の値は29.6ポイントで、全国平均、県平均とほぼ同値である。中学校は、「当てはまる」の値は36.1ポイントで、全国平均を5.7ポイント、県平均を4.8ポイントと上回っている。クロス集計から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒より、国語・数学（算数）・英語共に高くなっており、授業における主体的な学びと学力には相関性があると考えられる。

特に中学校においては、主体的な学びを重視した授業改善が進んでいることがうかがえる。今後も、「射水スタンダード～授業のA・B・C～」にある、ねらいを定め学習課題を明確にしていくこと、解決を見通せる授業を展開していくこと、考えをつなぎ問題を解決するための手がかりの可視化を意識した構造的な板書を意識することなどを授業に取り入れ、児童生徒が課題の解決に向けて、自ら取り組もうとする授業の工夫をしていくことが望まれる。

⑩　学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか

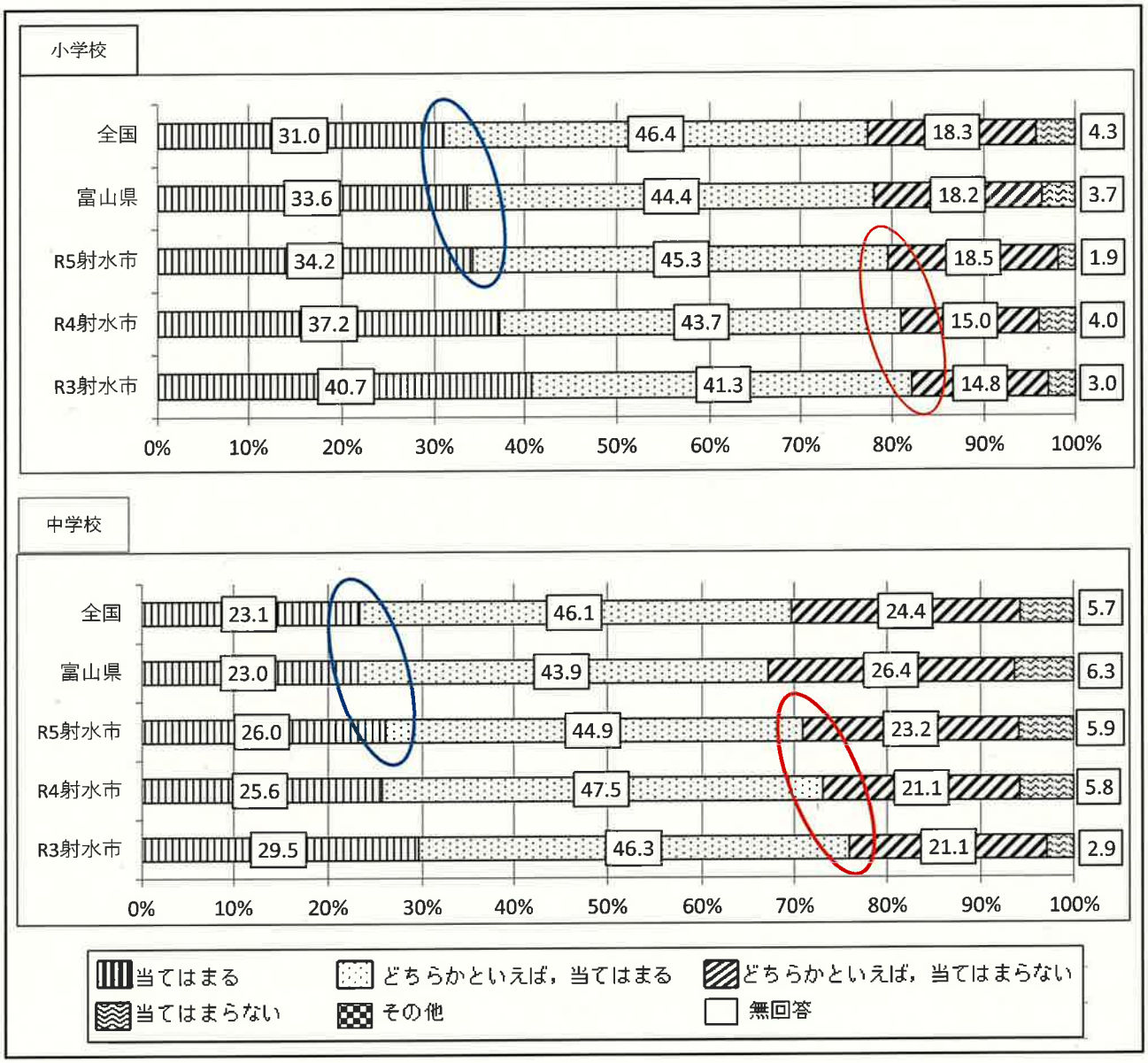


【考察】

小・中学校共に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の値は全国平均とほぼ同値である。また、経年比較においても大きな変化はなく、話し合う活動が自分の考えを深めたり，広げたりすることにつながると考える児童生徒が80％程度を占めている。クロス集計から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒より、国語・数学（算数）・英語共に高いことが分かり、話し合う活動と学力には相関性があると考えられる。

今後、さらに、積極的に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことが望まれる。そのためにも、話合い活動が活発になるように、WEBQU調査を活用した望ましい集団づくりに努めていくことが大切になると考える。

⑪　学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか

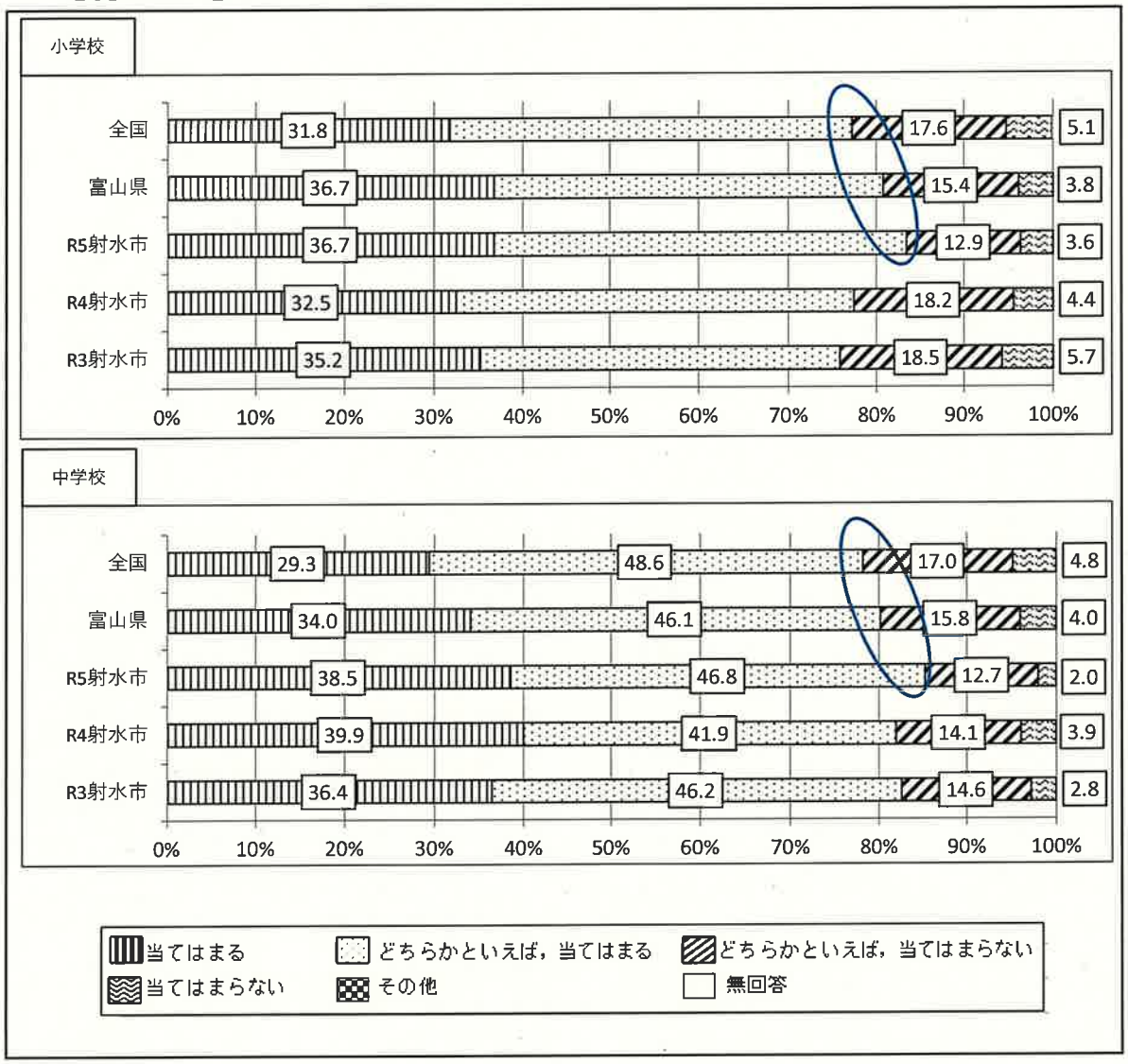


【考察】

小学校では、「当てはまる」と回答した児童の割合が、全国平均を3.2ポイント上回っている。中学校でも全国平均を2.9ポイント、県平均を3.0ポイント上回っている。一方、経年比較でみると、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の値は、小学校中学校共にR3年より年々減少している。クロス集計から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒より、国語・数学（算数）・英語共に高くなっており、学習内容の見直しと学力には相関性があると考えられる。

「射水スタンダード～授業のABC～」では、小中学校共に授業の終末に振り返りの場を設けることを求めている。今後も、分かったこととよく分からなかったことを整理し、次の授業につなげていく振り返りの場を工夫していくことが望まれる。

⑫　あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている



【考　察】

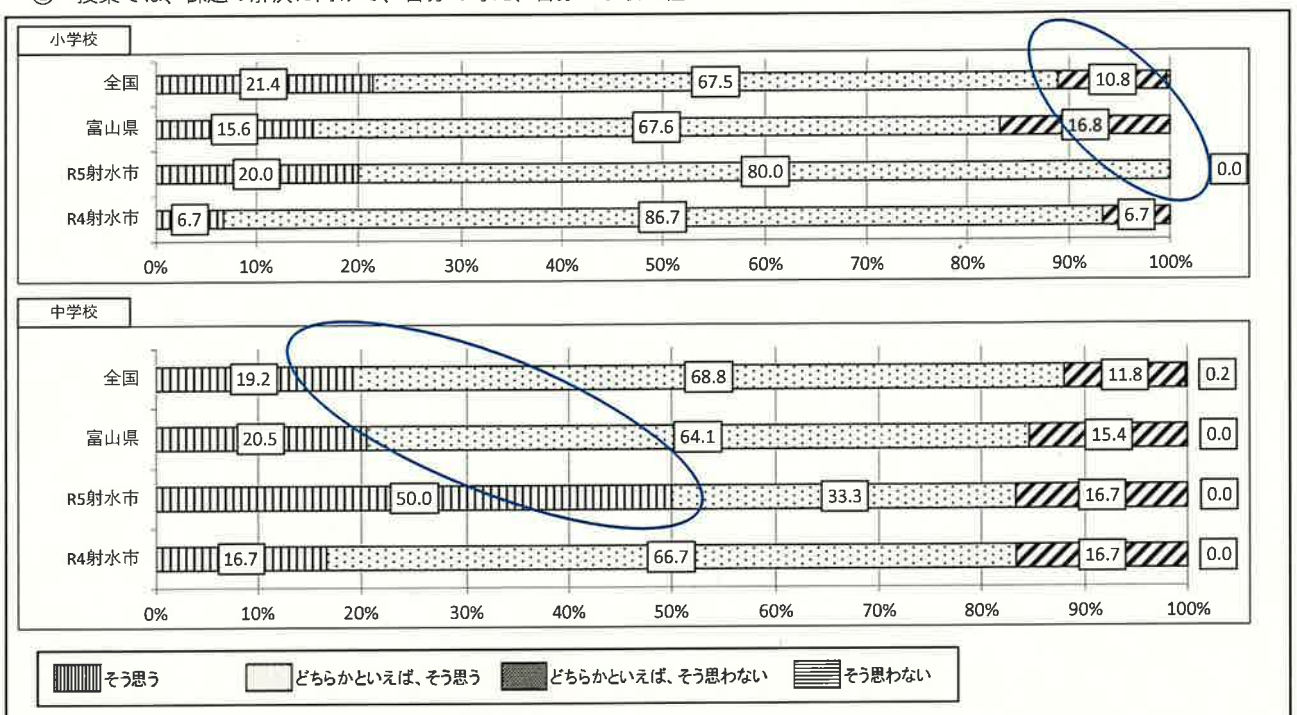
「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値は、小学校の全国平均との比較で6.2ポイント、県平均比較で2.7ポイント、中学校の全国比較で7.4ポイント、県比較で5.2ポイントと大幅に上回っている。

これは、教職員が「学び合う集団づくり推進事業」の研修を基盤に、教え合い、学び合う集団づくりに取り組み、WEBQU調査の結果を活用した望ましい集団づくりを実践してきた成果と考えられる。また、各教科や道徳科の授業をはじめ、学級活動や児童会・生徒会活動等の自治活動において、児童生徒が互いに意見や考えを伝え合う機会を積極的に設けていることの表れともいえる。

今後も、安心して自分の考えを述べたり、級友の意見を聞いたりすることができるような温かな学級の雰囲気づくりを進めていくことが望まれる。

（２）学校質問紙より

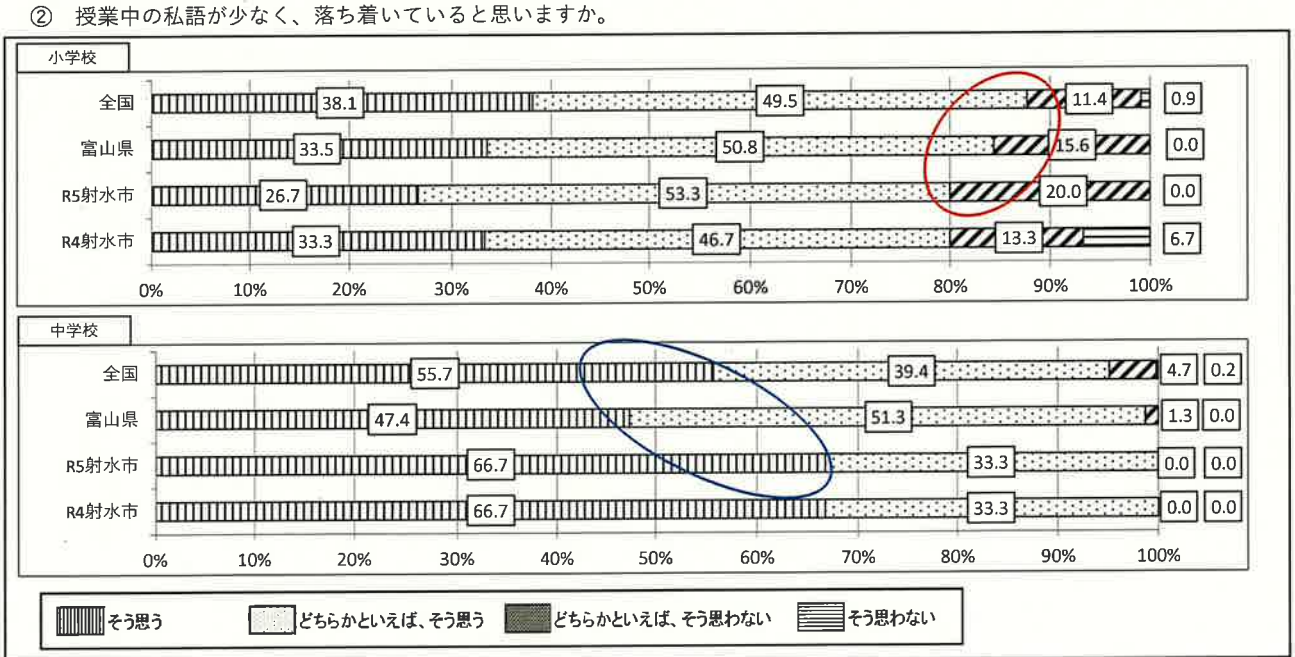
① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



小学校－「そう思う」(3校) 「どちらかといえば、そう思う」(12校) 「どちらかといえば、そう思わない」(0校)
中学校－「そう思う」(3校) 「どちらかといえば、そう思う」(2校) 「どちらかといえば、そう思わない」(1校)

小学校では市内全校が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している。中学校では、半数にあたる3校が「そう思う」と回答している。
どの学校でも射水スタンダードのもと、「分かりやすい課題」「主体的に取り組むための課題」の工夫を取り入れ、児童生徒が主体的に学習に取り組んでいることがうかがえる。

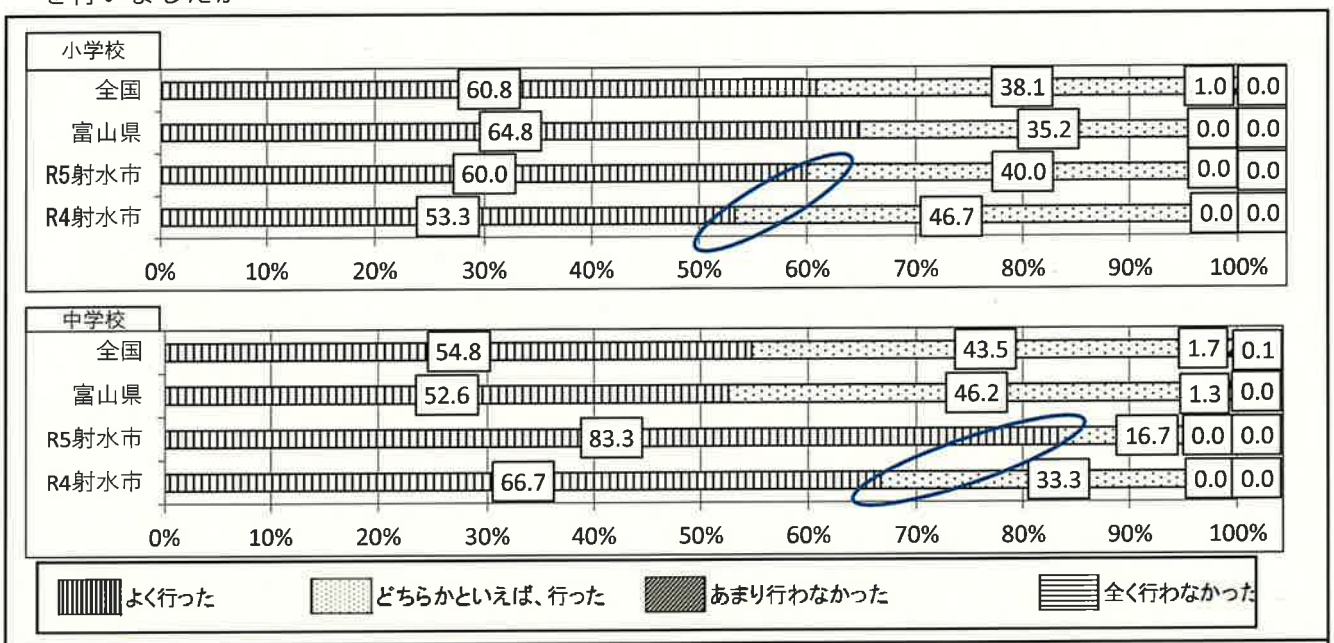
② 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。



小学校－「そう思う」(4校) 「どちらかといえば、そう思う」(8校) 「そう思わない」(3校)
中学校－「そう思う」(4校) 「どちらかといえば、そう思う」(2校)

小学校では、「どちらかといえば、そう思わない」が20.0ポイント(3校)で、全国平均より7.7ポイント、県平均より4.4ポイント上回っている。中学校では、「そう思う」が66.7ポイント(4校)で、全国平均より11.0ポイント、県平均より19.3ポイント上回っている。中学校では学習規律に基づき落ち着いて授業に取り組んでいる一方、小学校では落ち着いて授業に取り組むことが難しい児童がみられることがうかがえる。特別な支援が必要な児童に対するサポート等を手厚くしていく必要がある。

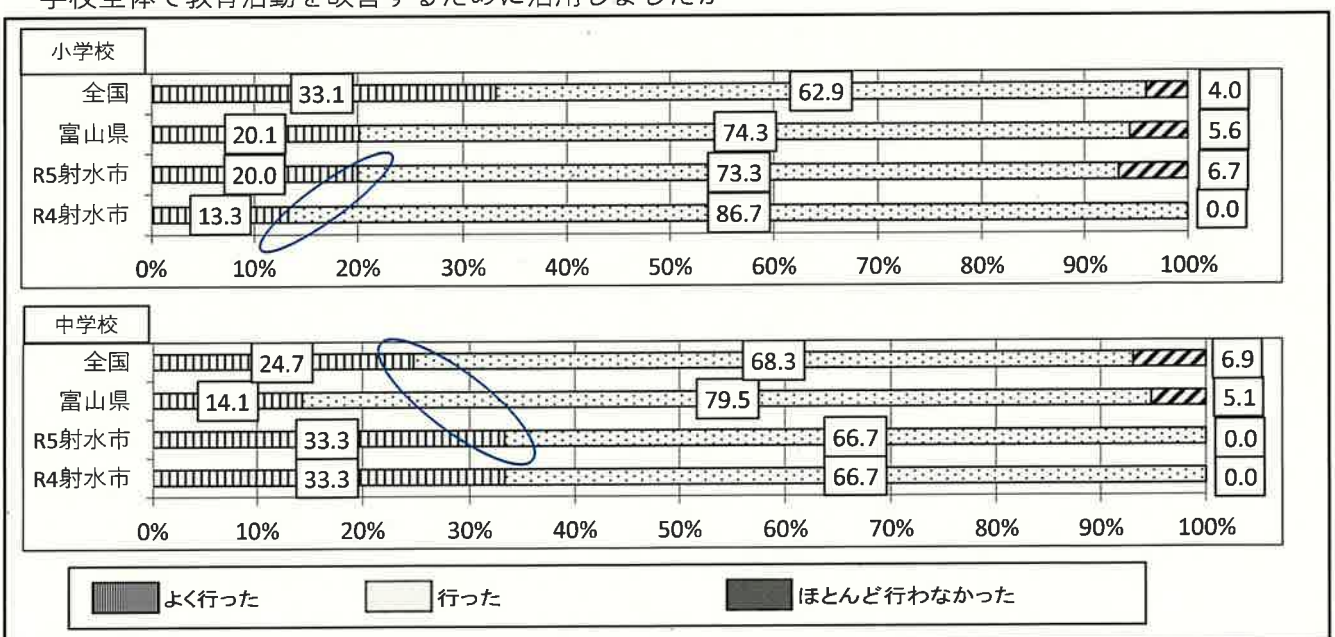
③　学校生活の中で，児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



小学校－「よく行った」(9校)　「どちらかといえば、行った」(6校)
中学校－「よく行った」(5校)　「どちらかといえば、行った」(1校)

「よく行った」という回答が、小学校では、県平均をやや下回ったものの、昨年度より6．7ポイント上回った。中学校では、全国平均・県平均を大幅に上回ると共に、前回からさらに大きく増加した。
今後も、児童生徒一人一人へのきめ細かな支援に努めるとともに、様々な教育活動を通して児童生徒のよさや可能性を見付け、認め、励まし、自尊感情を育んでいきたい。

④　令和４年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について，調査対象学年・教科だけではなく，学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



小学校－「よく行った」(3校)　「行った」(11校)「ほとんど行わなかった」(1校)
中学校－「よく行った」(2校)　「行った」(4校)　「ほとんど行わなかった」(0校)

小学校は、「よく行った」割合が、全国平均を大きく下回っているが、昨年度より6．7ポイント上回った。中学校は、「よく行った」割合が、全国平均・県平均を大きく上回り、「ほとんど行わなかった」学校はなかった。
今後も、各校の学力の課題を学習状況調査と照らし合わせながら分析し、課題解決に向けて具体的に取組を実践していくことが望まれる。

資料２

令和 5 年 11 月 の 主 な 行 事 予 定

日	曜	時間	場　所	行　事　予　定	主務・関連課	教育委員出席
1	水	13:30	会議室302	第2回スポーツ推進審議会	生涯学習・スポーツ課	教育長
1	水	16:00	会議室301	鳳雛きらめき塾報告会	学校教育課	○
2	木					
3	金		右記中学校	学習発表会（新湊中）	学校教育課	
4	土					
5	日	8:30	高岡市～射水市～富山市間	富山マラソン2023	生涯学習・スポーツ課	教育長
6	月					
7	火					
8	水					
9	木					
10	金					
11	土	9:30	ビルト・プレイズ歌の森体育館	ムズムズトレーニング教室（地域おこし協力隊企画）	生涯学習・スポーツ課	
11	土	10:00	金山小学校	創校150周年記念式典	学校教育課	教育長
11	土	10:00	東明小学校	創校50周年記念式典	学校教育課	
11	土	14:00	新湊農村環境改善センター	教育懇談会（射水市PTA連合協議会）	教育センター	教育長
12	日					
13	月	13:30	大島小学校	創校150周年記念式典	学校教育課	教育長
14	火	15:00	会議室401	第3回教育振興基本計画策定懇話会	学校教育課	教育長
15	水		黒部市内	富山県市町村教育長会研修会	学校教育課	教育長
16	木					
17	金					
18	土	10:00	救急薬品市民交流プラザ	第4回いみず親学びスクール「ラズベリーパイを用いたパイソンプログラミング教室」	生涯学習・スポーツ課	
18	土	14:00	放生津小学校	創校150周年記念式典	学校教育課	教育長
19	日					
20	月					
21	火	15:00	会議室401	定例教育委員会	学校教育課	○
22	水					
23	木	9:35	新湊小学校	創校150周年記念式典	学校教育課	教育長
24	金					
25	土		右記小学校	学習発表会（下村小）	学校教育課	
26	日					
27	月					
28	火	19:00	新湊中学校	第3回放生津小学校・新湊小学校統合準備会	学校教育課	教育長
29	水	10:00	会議室302～304	放課後子ども教室推進員等研修会	生涯学習・スポーツ課	
30	木					

展示等

自	至	場所	展示名	自	至	場所	展示名
9/22	11/26	新湊博物館	海が支えた放生津幕府一明応の政変と足利義材一	11/2	11/17	中央図書館	「アルコール関連の健康問題を普及啓発」展
11/8	11/21	新湊図書館	「お仕事について」（一般書） 「冒険の本」（児童書）	11/11	11/22	中央図書館	「もっと知ろう！糖尿病！」展

令和 5 年 12 月 の 主 な 行 事 予 定

日	曜	時間	場　所	行　事　予　定	主務・関連課	教育委員出席
1	金	10:00	新湊博物館	呈茶会	新湊博物館	
2	土	8:50	下村小学校	創立150周年記念式典	学校教育課	教育長
3	日	10:00	救急薬品市民交流プラザ	生涯学習作品展	生涯学習・スポーツ課	
3	日	14:00	救急薬品市民交流プラザ	生涯学習フェスティバル	生涯学習・スポーツ課	教育長
4	月					
5	火	9:00	会議室401	第3回小中学校長会	学校教育課	教育長
6	水					
7	木					
8	金					
9	土					
10	日					
11	月					
12	火					
13	水					
14	木					
15	金					
16	土					
17	日	13:30	新湊アイシン軽金属スポーツセンター	ムズムズトレーニング教室（地域おこし協力隊企画）	生涯学習・スポーツ課	
18	月					
19	火					
20	水					
21	木	13:00	オンライン	市町村教育委員会研究協議会	学校教育課	○
22	金		各小中学校	2学期終業式	学校教育課	
23	土					
24	日					
25	月					
26	火					
27	水					
28	木					
29	金					
30	土					
31	日					

展示等

自	至	場所	展示名	自	至	場所	展示名
12/1	2/12	新湊博物館	生誕130年　石黒宗麿				